2023年度
大学院社会学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【X6000】社会学基礎演習１［鈴木　智道］春学期授業/Spring 1
【X6001】社会学基礎演習２［鈴木　智之］秋学期授業/Fall 2
【X6002】社会学基礎演習３［鈴木　智道］春学期授業/Spring 3
【X6003】理論社会学１（社会システム理論）［徳安　彰］秋学期授業/Fall 4
【X6005】理論社会学４（ベーシックインカム研究）［岡野内　正］春学期授業/Spring 5
【X6006】理論社会学基礎１［徳安　彰］春学期授業/Spring 6
【X6007】理論社会学基礎２［徳安　彰］秋学期授業/Fall 7
【X6008】社会学特殊研究１（国際移住の社会学）［田嶋　淳子］春学期授業/Spring 8
【X6010】社会学特殊研究３（変化／不変化の社会学）［堀川　三郎］春学期授業/Spring 9
【X6012】社会学特殊研究４（産業・労働・国際移動）［惠羅　さとみ］秋学期授業/Fall 10
【X6014】社会学特殊研究５［中村　英代］春学期集中/Intensive(Spring) 11
【X6015】社会学特殊研究６［井上　直樹］春学期集中/Intensive(Spring) 12
【X6016】統計分析法［胡中　孟徳］秋学期授業/Fall 13
【X6017】調査研究法［三井　さよ］春学期授業/Spring 14
【X6018】質的資料分析法［堀川　三郎］秋学期授業/Fall 15
【X6019】メディア社会学基礎演習１［土橋　臣吾］春学期授業/Spring 16
【X6020】メディア社会学基礎演習２［小林　直毅］秋学期授業/Fall 17
【X6021】メディア社会学基礎演習３［土橋　臣吾］春学期授業/Spring 18
【X6022】メディア理論１（メディアの歴史と思想）［小林　直毅］秋学期授業/Fall 19
【X6023】メディア理論２（ニュースフレーム論）［藤田　真文］春学期授業/Spring 20
【X6024】メディア理論３（ジャーナリズム・スタディーズ）［別府　三奈子］秋学期授業/Fall 21
【X6025】メディア特殊研究１（ブランド広告の意味研究）［青木　貞茂］春学期授業/Spring 22
【X6026】メディア特殊研究４（ソーシャルメディア論）［藤代　裕之］春学期授業/Spring 23
【X6027】メディア社会学特殊研究１（知的財産権）［白田　秀彰］秋学期授業/Fall 24
【X6028】メディア研究実習１［山口　仁］春学期授業/Spring 25
【X6029】メディア研究実習２［北原　利行］秋学期授業/Fall 26
【X6030】メディア研究実習３［髙瀬　文人］秋学期授業/Fall 28
【X6031】学際研究２（映像と物語の認知科学）［金井　明人］秋学期授業/Fall 30
【X6033】学際研究３（歴史学の方法）［愼　蒼宇］春学期授業/Spring 31
【X6034】社会科学研究法１［大﨑　雄二］春学期授業/Spring 32
【X6036】外国書講読１（英語）［鈴木　智之］春学期授業/Spring 33
【X6037】外国書講読２（英語）［樋口　明彦］秋学期授業/Fall 34
【X6038】外国書講読１（英語）［土倉　英志］春学期授業/Spring 35
【X6039】外国書講読２（英語）［徳安　彰］秋学期授業/Fall 36
【X6040】外国書講読１（英語）［髙橋　誠一］春学期授業/Spring 37
【X6041】外国書講読２（英語）［吉田　公記］秋学期授業/Fall 38
【X6042】外国書講読１（仏語）［髙橋　愛］春学期授業/Spring 39
【X6043】外国書講読２（仏語）［髙橋　愛］秋学期授業/Fall 40
【X6044】外国書講読１（独語）［濱中　春］春学期授業/Spring 41
【X6045】外国書講読２（独語）［濱中　春］秋学期授業/Fall 42
【X6046】外国書講読１（中国語）［綿貫　哲郎］春学期授業/Spring 43
【X6047】外国書講読２（中国語）［綿貫　哲郎］秋学期授業/Fall 44
【X6050】社会学原典講読［橋爪　絢子］春学期授業/Spring 45
【X6051】修士論文指導ＩＡ［社会学研究科教員］春学期授業/Spring 46
【X6052】修士論文指導ＩＡ［藤田　真文］春学期授業/Spring 47

【X6061】修士論文指導Ⅰ B ［社会学研究科教員］秋学期授業/Fall 48
【X6062】修士論文指導Ⅰ B ［藤田　真文］秋学期授業/Fall 49
【X6071】修士論文指導Ⅱ A ［社会学研究科教員］春学期授業/Spring 50
【X6072】修士論文指導Ⅱ A ［樋口　明彦］春学期授業/Spring 51
【X6073】修士論文指導Ⅱ A ［田嶋　淳子］春学期授業/Spring 52
【X6074】修士論文指導Ⅱ A ［三井　さよ］春学期授業/Spring 53
【X6075】修士論文指導Ⅱ A ［鈴木　智之］春学期授業/Spring 54
【X6076】修士論文指導Ⅱ A ［別府　三奈子］春学期授業/Spring 55
【X6081】修士論文指導Ⅱ B ［社会学研究科教員］秋学期授業/Fall 56
【X6082】修士論文指導Ⅱ B ［樋口　明彦］秋学期授業/Fall 57
【X6083】修士論文指導Ⅱ B ［田嶋　淳子］秋学期授業/Fall 58
【X6084】修士論文指導Ⅱ B ［三井　さよ］秋学期授業/Fall 59
【X6085】修士論文指導Ⅱ B ［鈴木　智之］秋学期授業/Fall 60
【X6086】修士論文指導Ⅱ B ［別府　三奈子］秋学期授業/Fall 61
【X6300】博士論文指導Ⅰ A ［社会学研究科教員］春学期授業/Spring 62
【X6301】博士論文指導Ⅰ A ［鈴木　智之］春学期授業/Spring 63
【X6305】博士論文指導Ⅰ B ［社会学研究科教員］秋学期授業/Fall 64
【X6306】博士論文指導Ⅰ B ［鈴木　智之］秋学期授業/Fall 65
【X6310】博士論文指導Ⅱ A ［社会学研究科教員］春学期授業/Spring 66
【X6311】博士論文指導Ⅱ A ［岡野内　正］春学期授業/Spring 67
【X6315】博士論文指導Ⅱ B ［社会学研究科教員］秋学期授業/Fall 68
【X6316】博士論文指導Ⅱ B ［岡野内　正］秋学期授業/Fall 69
【X6320】博士論文指導Ⅲ A ［社会学研究科教員］春学期授業/Spring 70
【X6321】博士論文指導Ⅲ A ［愼　蒼宇］春学期授業/Spring 71
【X6322】博士論文指導Ⅲ A ［岡野内　正］春学期授業/Spring 72
【X6323】博士論文指導Ⅲ A ［徳安　彰］春学期授業/Spring 73
【X6324】博士論文指導Ⅲ A ［鈴木　智之］春学期授業/Spring 74
【X6325】博士論文指導Ⅲ A ［藤田　真文］春学期授業/Spring 75
【X6330】博士論文指導Ⅲ B ［社会学研究科教員］秋学期授業/Fall 76
【X6331】博士論文指導Ⅲ B ［愼　蒼宇］秋学期授業/Fall 77
【X6332】博士論文指導Ⅲ B ［岡野内　正］秋学期授業/Fall 78
【X6333】博士論文指導Ⅲ B ［徳安　彰］秋学期授業/Fall 79
【X6334】博士論文指導Ⅲ B ［鈴木　智之］秋学期授業/Fall 80
【X6335】博士論文指導Ⅲ B ［藤田　真文］秋学期授業/Fall 81
【X6340】社会学総合演習 A ［社会学研究科教員］春学期授業/Spring 82
【X6341】社会学総合演習 B ［社会学研究科教員］秋学期授業/Fall 83
【X6342】社会学研究１［GEORGE　HANN］秋学期授業/Fall 84
【X6343】社会学研究２［中村　英代］春学期集中/Intensive(Spring) 85
【X6344】社会学研究３［井上　直樹］春学期集中/Intensive(Spring) 86
【X6345】社会調査法１［三井　さよ］春学期授業/Spring 87
【X6346】社会調査法２［胡中　孟徳］秋学期授業/Fall 88
【X6347】社会調査法３［堀川　三郎］秋学期授業/Fall 89
【X6348】社会学原典研究１［橋爪　絢子］春学期授業/Spring 90

SOC600E1 － 1100

社会学基礎演習１

鈴木　智道

備考（履修条件等）：**「社会学基礎演習３」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学コースの修士課程１年生を対象に、大学院での研究の進め方、修士論文のテーマ設定、論文の構成の仕方を修得し、各自が修士課程における研究の計画・論文の構想を立てるまでを支援する。

【到達目標】
各自の問題関心と論文テーマを確定し、研究の方法を模索すると同時に具体的な研究計画を立てるところまでを課題とする。「研究」とは何か、「論文を書く」とはどのようなことか、についての基本的な考え方を理解し、春学期末までに、修士論文のテーマ設定、ならびに研究対象と研究方法の選択を行えるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回１人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。
なお、本演習は「社会学基礎演習３」（修士課程２年対象）と合同で開講する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第 2 回	修士課程１年による報告	問題関心報告
第 3 回	修士課程２年による報告①	修論構想報告
第 4 回	修士課程２年による報告②	修論構想報告
第 5 回	修士課程２年による報告③	修論構想報告
第 6 回	修士課程１年による報告①	研究計画報告
第 7 回	修士課程１年による報告②	研究計画報告
第 8 回	修士課程１年による報告③	研究計画報告
第 9 回	修士課程２年による報告①	修論中間報告
第 10 回	修士課程２年による報告②	修論中間報告
第 11 回	修士課程２年による報告③	修論中間報告
第 12 回	修士課程１年による報告①	修論構想報告
第 13 回	修士課程１年による報告②	修論構想報告
第 14 回	修士課程１年による報告③	修論構想報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、授業内で指示する。

【参考書】
適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞歴史社会学、教育社会学
＜研究テーマ＞家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to make the research theme clear and decide on the research plan.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC600E1 － 1101

社会学基礎演習２

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学コースの修士課程１年生を対象に、修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に照準化して、研究デザインの構築をめざす。あわせて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】
それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回１人～複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第 2 回	論文の主題と方法①	過去の論文に学ぶ①
第 3 回	論文の主題と方法②	過去の論文に学ぶ②
第 4 回	論文の主題と方法③	過去の論文に学ぶ③
第 5 回	論文の主題と方法④	過去の論文に学ぶ④
第 6 回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第 7 回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第 8 回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第 9 回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第 10 回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第 11 回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第 12 回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第 13 回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第 14 回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、授業内で指示する。

【参考書】
適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
担当回の報告内容および毎回の議論への参加（60%）、レポート（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students design their research plans for writing a master thesis. Students are expected to make the research question clear and write an introductory chapter.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and the quality of the final report (40%).

SOC600E1 － 1102

社会学基礎演習３

鈴木　智道

備考（履修条件等）：**「社会学基礎演習１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学コースの修士課程２年生を対象に、修士論文の構想、研究の進め方、完成までの筋道の立て方を、受講者全員の議論を通じて考えていく。

【到達目標】
春学期末までに、修士論文の章立て、ならびに最終的な研究計画を確定することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回１人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。
なお、本演習は「社会学基礎演習１」（修士課程１年対象）と合同で開講する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第 2 回	修士課程１年による報告	問題関心報告
第 3 回	修士課程２年による報告①	修論構想報告
第 4 回	修士課程２年による報告②	修論構想報告
第 5 回	修士課程２年による報告③	修論構想報告
第 6 回	修士課程１年による報告①	研究計画報告
第 7 回	修士課程１年による報告②	研究計画報告
第 8 回	修士課程１年による報告③	研究計画報告
第 9 回	修士課程２年による報告①	修論中間報告
第 10 回	修士課程２年による報告②	修論中間報告
第 11 回	修士課程２年による報告③	修論中間報告
第 12 回	修士課程１年による報告①	修論構想報告
第 13 回	修士課程１年による報告②	修論構想報告
第 14 回	修士課程１年による報告③	修論構想報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、授業内で指示する。

【参考書】
適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞歴史社会学、教育社会学
＜研究テーマ＞家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to design chapters of the master thesis according to the research plan.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC500E1 － 1200

理論社会学１（社会システム理論）

徳安　彰

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、一般システム理論やサイバネティクスの概念を学び、それを社会現象に適用して、社会現象のメカニズムを理解することを目的とする。

【到達目標】
この授業では以下のようなことができるようになることを目標とする。
①一般システム理論やサイバネティクスの概念を理解し、修得することができる。
②それらの概念を社会現象に適用することができる。
③それらの概念によって社会現象のメカニズムを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、一般システム理論やサイバネティクスの概念について教員が説明する部分と、それを受講生が社会現象に適用して発表し、全員で検討する部分から成り立つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要とシステム理論の歴史について概説する。
第 2 回	ホメオスタシス	ホメオスタシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 3 回	フィードバック	フィードバックの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 4 回	モーフォジェネシス	モーフォジェネシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 5 回	エントロピー	エントロピーの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 6 回	シナジェティクス	シナジェティクスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 7 回	カオス	カオスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 8 回	ブラックボックス	ブラックボックスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 9 回	トリビアルな機械／トリビアルでない機械	トリビアルな機械／トリビアルでない機械の概念を説明し、社会現象に適用する。
第 10 回	開放システム／閉鎖システム	開放システム／閉鎖システムの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 11 回	オートポイエーシス	オートポイエーシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 12 回	システム分化	システム分化の概念を説明し、社会現象に適用する。
第 13 回	総括討論１	全体を振り返り、全員で総合討論を行う。
第 14 回	総括討論２	全体を振り返り、全員で総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに用いない。

【参考書】
『社会学理論応用事典』丸善、2017 年（とくに「社会システム」の各項目）。
その他の参考書については、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
この授業は、平常点のみで評価する。その内訳は、
①授業内での議論 50 %
②授業後の掲示板への書き込みおよびその内容 50 %
である。授業に出席しなかったばあいには、授業後の掲示板の書き込みも含めて、当日分の評価はゼロである。

【学生の意見等からの気づき】
初めての担当なので、とくにない。

【学生が準備すべき機器他】
可能ならば自分用のノートパソコンを準備するのが望ましい。

【その他の重要事項】
この授業は、受動的な受講ではなく、能動的に自分で概念を社会現象に適用する作業が最も重要です。毎回、自分の頭を使い、他の受講生と一緒になって考える作業が課せられます。授業に積極的にコミットする姿勢で臨んでください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会システム理論
＜研究テーマ＞グローバル化の中の社会システム
＜主要研究業績＞学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】
This course introduces several concepts of general systems theory and cybernetics to help students analyze social phenomena.
The goals of this course are (1) to learn several concepts of general systems theory and cybernetics, (2) to apply these concepts to social phenomena, and (3) to understand the mechanism of social phenomena with these concepts.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on in-class contribution(50%) and short reports (50%).

SOC500E1 － 1203

理論社会学４（ベーシックインカム研究）

岡野内　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ベーシックインカム研究の前提となる社会理論として、A・A・バーリと G・C・ミーンズによる株式会社論の概要をつかむ。この授業では、『現代株式会社と私有財産』をゼミ形式で精読しながら岡野内『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』と関連づけて議論することで、その理解を深めていく。

【到達目標】
テクストの基本的な内容を理解し、報告、討論を通じて、批判的な読解力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、いわゆる読書会形式で、担当者を決めてテキストを読み、要約と疑問点、論点を出し合い、議論しつつ解決していきます。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の箇所について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④議論したい論点、を書き込んでいきます。
課題などへのフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての打ち合わせ。この授業テーマに関する自由討論による授業に取り組むうえでの問題意識の明確化。
第 2 回	過渡期にある財産と、株式会社制度の出現	第１編第１，２章の内容に関する報告と討論。
第 3 回	経済力の集中と株式所有権の分散	テーマに関する報告と討論。
第 4 回	支配の進化、および所有権と支配との利害の乖離	テーマに関する報告と討論。
第 5 回	現代株式会社構造の進化	テーマに関する報告と討論。
第 6 回	株券に付与された様々な参加の権限	テーマに関する報告と討論。
第 7 回	株式のどれに収益を配分するかに関する権限	テーマに関する報告と討論。
第 8 回	証券所有者の当初契約権を変更する権限	テーマに関する報告と討論。
第 9 回	経営者と「支配者」の法的地位	テーマに関する報告と討論。
第 10 回	信託された権力としての会社権力、結果としての株主の地位	テーマに関する報告と討論。
第 11 回	公開市場の機能、新規証券の募集と銀行家の情報開示	テーマに関する報告と討論。
第 12 回	市場に対する会社の情報開示、市場における経営者	テーマに関する報告と討論。
第 13 回	財産と利潤の伝統的な論理	テーマに関する報告と討論。
第 14 回	伝統的な理論の不備と、株式会社の新概念	テーマに関する報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの掲示板に、毎回の授業についての書き込みをする必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
バーリ＝ミーンズ著、森杲訳『現代株式会社と私有財産』北海道大学出版会、2014 年。

【参考書】
岡野内　正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程――批判開発学/SDGs との対話』法律文化社、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加と、毎回の授業についての書き込みの４つの論点について、25 点ずつ合計 100 点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】
掲示板を用いて、公開で議論を進めるやり方が役に立ったという意見に基づいて、引き続き進めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021 年）、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年）など。

【Outline (in English)】
A seminar class for students who wish to understand the social theory of A.A.Berle and G.C.Means. In this advanced class, "The Modern Corporation and Private Property" will be read and discussed with attention to T.Okanouchi's "Perspectives to Global Basic Income Scheme"(Houritsu Bunka-Sha: Kyoto, 2021).

SOC500E1 － 1300

理論社会学基礎 1

徳安　彰

備考（履修条件等）：**学部「社会学史Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院で研究を進めるための素養として古典的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】
この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を知り、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント／スペンサー	三段階の法則、社会進化、軍事型社会／産業型社会
4	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
6	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
7	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
8	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
9	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
10	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
11	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
12	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
14	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】
ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未來社
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の２つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】
この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会システム理論
＜研究テーマ＞グローバル化の中の社会システム
＜主要研究業績＞学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】
In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 － 1301

理論社会学基礎２

徳安　彰

備考（履修条件等）：**学部「社会学史Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院での研究を進めるための基本的素養として、社会学の現代的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】
この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を知り、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面形式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトゥルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』　有斐閣
新睦人（編）『社会学のあゆみ　パート２』有斐閣
新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の２つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】
この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会システム理論
＜研究テーマ＞グローバル化の中の社会システム
＜主要研究業績＞学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】
In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 － 1205

社会学特殊研究１（国際移住の社会学）

田嶋　淳子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の中での国際移住に関わる諸問題を考える。

【到達目標】
国際移住の現状を把握し、その問題について、日本社会あるいは東アジア諸地域を対象に社会調査を実施することが可能となること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を以下の項目について 3～4 回程度で学んでいく。
①国際移住研究の現状と課題
②国際移住研究に関する概念の検討
③国際移住研究の方法
④日本における国際移住研究の現状と課題

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 講	国際移住研究の現在（1）	本講義の進め方と取り上げる文献や資料についての説明。
第 2 講	国際移住研究の現在（2）	Castles & Miller,2011 を読み、1990 年代までの国際移住研究の現状を学ぶ。
第 3 講	国際移住研究の現在（3）	Castles らの研究から 2000 年代以降の研究の展開を学ぶ。
第 4 講	国際移住研究の課題	国際移住研究の現状を踏まえ、その後の理論的展開について、いくつかの論文を参照する。
第 5 講	国際移住研究における概念の検討（1）	アメリカにおける国際移住研究の中の transnationalism（Smith &Guarnizo,1998)
第 6 講	国際移住研究における概念の検討（2）	ヨーロッパにおける国際移住研究の中の ransnationalism,(Faist,2004)
第 7 講	国際移住研究における概念の検討（3）	Diaspora 概念の検討
第 8 講	国際移住研究の方法（1）	事例研究１：日本における中国系移住者（田嶋,2010)
第 9 講	国際移住研究の方法（2）	事例研究２：日本における韓国系移住者（田嶋,2010)
第 10 講	国際移住研究の方法（3）	事例研究３：東アジアにおける中国系移住者（田嶋,2010)
第 11 講	日本における国際移住研究の現状（1）	フィールドワーク（実際にフィールドに出て、課題をこなす）
第 12 講	日本における国際移住研究の現状（2）	これまでに学んだことと、フィールドでの知見をあわせて、各自がレポートを作成し、報告する。
第 13 講	国際移住研究（調査研究事例）	アメリカにおける中国系移住者研究の現在（Zhou,2009)
第 14 講	国際移住研究（調査研究事例）	韓国系移住者研究の現在（高、2007)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回までに指定された文献の講読と関連論文の講読、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1. カースルズ,S.&ミラー、M.J.2011『国際移民の時代（第４版）』名古屋大学出版会。
2. 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学』明石書店。その他は講義の中で指示する。

【参考書】
1.Hein de Haas,S.Castles & M.J.Miller,2020 The Age of Migration(6th edition),Red Globe Press,London.
2.M.P.Smith &L.E.Guarnizo (eds.),1998, *Transnationalism From Below (Comparative Urban & Community Research Vol.6)* New Brunswick, NewJersey,Transaction Publishers.
3.T.Faist ed.2004 *Transnational Social spaces :Agents, Networks and Institutions* ,Aldershot,Ashgate.
4.Zhou,M.2009*The Contemporary Chinese American*,Temple University Press.
5. 高全恵星監修・柏崎千佳子訳、2007『ディアスポラとしてのコリアン』新幹社。
6. 栗田和明編、2018『移民と移住』昭和堂。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表（30 %）とコメント 20 %、レポート課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
＜研究テーマ＞　グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
＜主要研究業績＞
１．『国際移住の社会学』明石書店、2010 年。
２．「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂,2018 年
３．「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第 13 号、66 － 78 ページ、2021 年。

【Outline (in English)】
Course Outline
Graduate school students will study various issues of international migration in the age of globalization
Learning Objectives
Students will understand the realities of international migration and conduct surveys concerning Japan and East Asia.
Learning Activities Outside Class
Students will do assigned readings and read related papers before each class. Standard duration will be two hours.
Assessment
Class presentations (30%), comments on presentations given by other students (20%) and reports (50%)

SOC500E1 － 1207

社会学特殊研究３（変化／不変化の社会学）

堀川　三郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学はその創始から，社会の変化を「A から B へ」「〇〇化」という図式で記述してきた。例えば「ゲマインシャフトからゲゼルシャフトへ」（テニエス）や「脱呪術化」（ウェーバー）が有名である。こうした図式的理解の根幹は，「変化の把握」である。「変化」を「変動」と言い換えてもよいが，いずれにせよここで重要なことは，こうした把握方法では変化することは当然のことと見なされ，それがどこへ向かうのかその見通しを立てることこそが主要な関心であった，ということだ。
しかし，この授業では変化することを自明視せず，「変化しないこと」へと視野を拡大していこうと思う。換言すれば，社会学の知的伝統に則って「変化をどのようにとらえるか」を検討するのみならず，その変化の仕方や変化の制御過程，さらには「変化しないもの」をも把握しようと試みる。具体的には，いくつかの文献を「変化／不変化」という観点から精読して議論の土台を共有してから，受講者それぞれの研究テーマ・素材を持ち寄り，変化／不変化をいかに語りうるのか，方法的拡張を意識しながら検討を加えていくことにする。人数にもよるが，持ち寄る素材は，受講者の修士論文，博士論文，学会報告，投稿論文などの草稿で構わない。それらの完成・洗練化に役立つような授業にしていくつもりである。担当教員の専門から，都市や地域，環境に関心を寄せる院生の参加を期待しているが，それ以外の領域でも受講を歓迎する。自らの論文完成のために，本授業をおおいに「利用」して欲しい。

【到達目標】
自らの研究テーマを，「A から B へ」「〇〇化」という図式で記述し，具体的なデータに基づいて議論を展開できる能力の涵養を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの講読，院生による研究報告，全員での討論，などで構成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業への導入
第 2 回	文献講読［1］	テーマ探究のための文献講読
第 3 回	文献講読［2］	テーマ探究のための文献講読
第 4 回	文献講読［3］	テーマ探究のための文献講読
第 5 回	文献講読［4］	テーマ探究のための文献講読
第 6 回	文献講読［5］	テーマ探究のための文献講読
第 7 回	文献講読［6］	テーマ探究のための文献講読
第 8 回	文献講読［7］	テーマ探究のための文献講読
第 9 回	受講者のテーマ報告および討論［1］	受講者の報告を受けて，研究深化のための討論
第 10 回	受講者のテーマ報告および討論［2］	受講者の報告を受けて，研究深化のための討論
第 11 回	受講者のテーマ報告および討論［3］	受講者の報告を受けて，研究深化のための討論
第 12 回	受講者のテーマ報告および討論［4］	受講者の報告を受けて，研究深化のための討論
第 13 回	受講者のテーマ報告および討論［5］	受講者の報告を受けて，研究深化のための討論
第 14 回	まとめ	まとめと総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。事前に文献を読み，レジュメを作成すること。

【テキスト（教科書）】
履修者と相談のうえ，決定する。

【参考書】
講読文献は，受講者と相談したうえで決定するが，下記は候補文献の一部である。これに縛られず，履修者の関心領域とすり合わせながらフレキシブルに対応する予定である：
［1］堀川三郎（2018）『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』東京大学出版会.
［2］森久聡（2016）『＜鞆の浦＞の歴史保存とまちづくり：環境と記憶のローカル・ポリティクス』新曜社.
［3］Page, Max (2016) *Why Preservation Matters* (Why X Matters Series). New Haven, CT: Yale University Press.
［4］水村美苗（[2008] 2015）『増補 日本語が亡びるとき：英語の世紀の中で』（ちくま文庫み-25-4）筑摩書房.
［5］藤田弘夫（2003）『都市と文明の比較社会学：環境・リスク・公共性』東京大学出版会.
［6］Holleran, Michael (1998) *Boston's "Changeful Times": Origins of Preservation and Planning in America* (Creating the North American Landscape). Baltimore, MD: Johns Hopkins University Press.
［7］Barthel, Diane (1996) *Historic Preservation: Collective Memory and Historical Identity*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
［8］Horikawa, Saburo (2021) *Why Place Matters: A Sociological Study of the Historic Preservation Movement in Otaru, Japan, 1965 – 2017*. Cham, Switzerland: Springer.

【成績評価の方法と基準】
討論での貢献度で評価する（100 %）。人数によってはレポートを課すが，その場合の成績評価は，討論への貢献 50%，レポート評価 50%とする。

【学生の意見等からの気づき】
定期的に院生の意見を聞きながら，運営する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学，都市社会学
＜研究テーマ＞歴史的環境保存の社会学，日米比較社会論
＜主要研究業績＞『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』（東京大学出版会，2018 年），*Why Place Matters* (Springer, 2021) など

【Outline (in English)】
Since its founding, sociology has described social change through formulaic expressions such as "from A to B" or in terms of "-cations" and "-zations." Ferdinand Tönnies' "from Gemeinschaft to Gesellschaft" and Max Weber's "Disenchantment (Entzauberung)" are two well-known examples. At the heart of this formulaic understanding is understanding change. The words "change" and "transformation" may be interchangeable, but in any case, what is important here is that this method of understanding considers change as a natural process, and sociology's major concern was to create insight as to where that change might lead.
In this course, however, we do not accept change as inevitable and will expand our horizons to that of "unchanging," or not changing. To put it differently, not only do we examine how change should be interpreted in accordance with the intellectual traditions of sociology, but we also attempt to understand the ways in which changes occur, the control processes involved, and finally, what we refer to as "un/change." Specifically, once we conduct a close reading of the literature from the perspective of un/change for a shared foundation for argumentation, students will bring materials for their research topics to class, where we will investigate how they can be discussed in terms of un/change, ever conscious of methodological expansion during our investigations. While it depends on the number of students, materials for research can be drafts of students' master's theses, doctoral dissertations, academic conference presentations, or articles for publishing. This course is intended to help students complete and refine their work. The instructor's expertise lies in cities, communities, and the environment and expects graduate students with similar interests to join but welcomes students from other areas as well. The instructor wishes that students "use" this class to complete their theses and dissertations. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Overall grade will be decided based on one's contribution in class discussion.

SOC500E1 － 1208

社会学特殊研究４（産業・労働・国際移動）

惠羅　さとみ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・労働、グローバル化と人の越境的な移動などに関する文献を読み、今日的な研究課題や方法について検討する。

【到達目標】
既存の労使関係が前提とする国民国家の枠組みを相対化し、グローバル化と相互依存関係、越境的移動の拡大を踏まえた産業・労働研究のあり方について考える視点を持つこと。またそれぞれの研究テーマに役立てること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
文献講読と院生の研究報告および討論などで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明。講読文献および担当などを相談。
第 2 回	文献講読１	テーマに即した文献の講読と討論
第 3 回	文献講読２	テーマに即した文献の講読と討論
第 4 回	文献講読３	テーマに即した文献の講読と討論
第 5 回	文献講読４	テーマに即した文献の講読と討論
第 6 回	文献講読５	テーマに即した文献の講読と討論
第 7 回	文献講読６	テーマに即した文献の講読と討論
第 8 回	文献講読７	テーマに即した文献の講読と討論
第 9 回	文献講読８	テーマに即した文献の講読と討論
第 10 回	受講者による報告１	受講者の研究報告と討論１
第 11 回	受講者による報告２	受講者の研究報告と討論２
第 12 回	受講者による報告３	受講者の研究報告と討論３
第 13 回	受講者による報告４	受講者の研究報告と討論４
第 14 回	まとめ	まとめの討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
履修者と相談のうえ決定する。

【参考書】
授業の中で指定する。

【成績評価の方法と基準】
文献報告・ディスカッションへの参加（50%）
個人の研究報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】
テーマの広がりの中に参加者の関心を位置付けるよう心掛ける。

【その他の重要事項】
内容や講読文献について相談するので、履修予定者は必ず初回授業に参加すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際社会学、産業・労働社会学
＜研究テーマ＞産業再編成と労使関係、越境的な人の移動
＜主要研究業績＞『建設労働と移民ー日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021 年）

【Outline (in English)】
This course aims to consider labor and industrial relations in Japan from the perspective of transnational sociology.
Learning Objectives: In this course, students will be expected to learn the theoretical and practical issues related to the world of work in transition, discuss research questions and methods of each participant's research interest and attempt to apply the ideas and framework of transnational sociology into one's field of research.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter(s) from the reading assignments.
Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

SOC500E1 － 1209

社会学特殊研究５

中村　英代

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会学研究２」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】
本クラスでは、個人報告と文献購読によって、１）臨床社会学研究、２）質的調査研究について学びます。
【目的】
以上の学びを通じて、受講生各自が自分自身の研究力を向上させることを目的とします。

【到達目標】
・臨床社会学について理解し、自分自身の研究に活かすことができる。
・質的調査方法論を理解し、自分の研究に活かすことができます。
・理論的な分析視角を設定し、自分自身の質的データを意味ある社会学研究としてまとめあげていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式（個人報告および文献購読）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	本クラスのスケジュール、個人報告・文献報告の分担の決定。
第２回	個人報告（１）	受講生が、各自自分自身の研究について報告。
第３回	個人報告（２）	受講生が、各自自分自身の研究について報告。
第４回	文献購読（１）：研究対象の設定と調査者のポジショナリティ	指定テキストの序章（『摂食障害の語り』）を読み込み、調査対象の設定の仕方、調査者の立場性について理解する。
第５回	文献購読（２）：先行研究のレビュー	指定テキストの第１章（『摂食障害の語り』）を読み込み、先行研究のレビューの仕方、先行研究のまとめ方について理解する。
第６回	文献購読（３）：分析視角としての社会構成主義	指定テキストの第５章（『摂食障害の語り』）を読み込み、社会構成主義と社会構成主義という視座の質的研究法への応用の仕方について理解する。
第７回	文献購読（４）：相対化される言説のなかで、自らの調査データをいかに位置付けるか	指定テキストの第６章（『摂食障害の語り』）を読み込み、あらゆる言説が相対化されるなかに、自らの調査データをいかに位置付けるかを理解する。
第８回	文献購読（５）：分析視角の設定①	指定テキストの第１章・２章（『依存症と回復、そして資本主義』）を読み込み、分析視角の設定の仕方について理解する。
第９回	文献購読（６）：分析視角の設定②	指定テキストの第３章・４章（『依存症と回復、そして資本主義』）を読み込み、分析視角から調査対象を分析する方法について理解する。
第10回	文献購読（７）：臨床社会学研究を学ぶ	指定テキストの第５章・６章（『依存症と回復、そして資本主義』）を読み込み、臨床社会学研究の課題や方法について理解する。
第11回	個人報告（１）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。
第12回	研究報告（２）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。
第13回	研究報告（３）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。
第14回	研究報告（４）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
各回指定の文献を必ず読んできて下さい。

【テキスト（教科書）】
・中村英代、2022『依存症と回復、そして資本主義――暴走する社会で〈希望のステップ〉を踏み続ける』光文社.
・中村英代、2011『摂食障害の語り――〈回復〉の臨床社会学』新曜社.
以上の２冊のテキストは授業で使うので、受講者は必ず用意をして下さい。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
授業内での報告（50%）、ディスカッション（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞現代社会の生きづらさ（摂食障害、依存症）、資本主義社会システム、質的調査方法論
＜主要研究業績＞
・中村英代、2022『依存症と回復、そして資本主義――暴走する社会で〈希望のステップ〉を踏み続ける』光文社.
・中村英代、2017『社会学ドリル――この理不尽な世界の片隅で』新曜社.
・中村英代、2011『摂食障害の語り――〈回復〉の臨床社会学』新曜社.【第 11 回日本社会学会奨励賞・著書の部　受賞】
・南 保輔・中村英代・相良翔編、2018『当事者が支援する―薬物依存からの回復 ダルクの日々パート 2』春風社.

【担当教員ウェブサイト】
http://www.hideyonakamura.com
以上は担当教員の公式ウェブサイトです。履修の際に参考にして下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the clinical sociology and methods of qualitative research. It also enhances the development of students' skill in sociological research.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to improve students' own sociological research skills.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Seminar reports: 50%、in class contribution: 50%.

SOC500E1 － 1210

社会学特殊研究６

井上　直樹

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会学研究３」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、YouTube、TikTok、Twitter などのソーシャルメディアを中心とした「デジタル・ジャーナリズム」を学びます。授業の目的は、ソーシャルメディアの世界で起きている出来事を理解すること、インターネットの情報やデジタル技術を活用して情報を調べるスキルを身につけること、どのように発信すると人々に届くのか、自分自身のデジタル空間での振る舞いやプライバシーについて考えることです。

【到達目標】
デジタル調査報道の事例や、スキルの実践を通して、自分自身で情報の信頼性を調べることができるようになり、インターネットにおける情報の消費及び発信に関するメディアリテラシーについてより深い知識・考察を得ることを目指します。日常生活を含めて「デジタル・ジャーナリズム」のスキル・知識を活用できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習（ワークショップや議論）を組み合わせて行います。デジタルツールを利用した新たな報道やジャーナリズム手法を知り、実際に手を動かしながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の予定や目的について説明。
第 2 回	世界のデジタル調査報道、キャンペーンについて	国内外の報道機関やメディアにおけるデジタル技術を使った調査や、コンテンツ制作の事例を紹介する。
第 3 回	デジタル調査の演習（検索するスキル）	インターネット上での検索を効率的にする方法。「消えた」サイトを調べるには... など。
第 4 回	デジタル調査の演習（場所を調べる）	ソーシャルメディアなどに投稿された映像の場所を、様々なツールを使って調べる。
第 5 回	デジタル調査の演習（デジタルデータ）	スマートフォンで撮影された映像のデータを調べたり、様々なサイトを活用して社会の事象を追う方法を知る。
第 6 回	デジタル調査の演習（衛星画像）	衛星画像を報道や事実検証で活用する方法を知る。
第 7 回	デジタル調査の演習（データ活用）	公開されている様々なデータを活用して、何か新しい発見を探す。
第 8 回	SNS をウォッチする報道について	Twitter などのソーシャルメディアを常時監視することで事件や事故、災害の情報を発見する活動について知る。
第 9 回	データジャーナリズム（事例紹介）	データを使った報道の事例について学ぶ。
第 10 回	データジャーナリズム（議論など）	データ報道の実践や、国内外の事例について議論する。
第 11 回	メディアリテラシー	講座内で学ぶデジタルの調査手法は、自分に向けられる可能性もある。デジタル空間でのメディアリテラシーを考える。ネットの世論が、社会の世論なのか？
第 12 回	エンジニアリングとメディア・報道	ウェブサイト制作や分析、AR、VR などを活用した昨今の報道事例を学ぶ。ブロックチェーン活用を模索した事例など。
第 13 回	メディアの発信・社会の声を集める	社会の声を集めるためにデジタルツールを使ったり、メディアが連携してコンテンツを発信する事例について学ぶ
第 14 回	まとめ	講義で学んだポイントを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
記者のためのオープンデータ活用ハンドブック
熊田安伸 (著)
出版社 ： 公益財団法人　新聞通信調査会
発売日 ： 2022/12/25

【参考書】
フェイクニュースの生態系
藤代 裕之 (著, 編集)
出版社 ： 青弓社
発売日 ： 2021/9/7

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 点、レポート 50 点

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ジャーナリズム、メディア
＜研究テーマ＞ジャーナリズム、メディアにおけるテクノロジーの利用
＜主要研究業績＞　現在 NHK で働き、デジタル技術を活用した報道に取り組んでいます。これまでの仕事では、Google でメディアを支援する仕事をしたり、新聞社で記者をしてきました。新しい技術を報道やメディアで利用していくことを考えています。

【Outline (in English)】
This class will study "digital journalism" with a focus on social media such as YouTube, TikTok, and Twitter. The objectives of the class are to understand what is happening in the world of social media, to develop skills in using the Internet and digital technology for research information, to think about how to reach people when you create content, and to think about your behavior and privacy in the digital space.

SOC500E1 － 1302

統計分析法

胡中　孟徳

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会調査法２」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】
主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS ：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS ：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS ：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第 2 回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第 3 回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第 4 回	線形代数の基礎	線型代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第 5 回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第 6 回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線型代数を用い解説する
第 7 回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第 8 回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の１つである OLS と、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第 9 回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第 10 回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第 11 回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第 12 回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第 13 回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第 14 回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】
ボーンシュテット＆ノーキ，1990，『社会統計学』ハーベスト社.
片瀬一男編，2007，『社会統計学』放送大学教育振興会.
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40 %）とレポート（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞教育社会学・生活時間研究
＜研究テーマ＞生活時間と格差
＜主要研究業績＞
中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤渉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018 年，章分担執筆）.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports
(60%).

SOC500E1 － 1304

調査研究法

三井　さよ

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会調査法１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学の研究の実際の場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析する思考法を習得する。まずは社会学の調査研究の古典、近年の優れた研究を講読し、また担当者自身の研究のデータ収集・分析のプロセスを見ていくことを通して、それらの問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学ぶ。さらに受講者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】
・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインあるいは対面（ハイブリッド）での演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1 ：社会学と社会調査	社会学における社会調査の歴史と発展について学ぶ。
第 2 回	総論 2 ：社会調査の諸類型	社会調査のさまざまな類型について学ぶ。
第 3 回	総論 3 ：社会調査の倫理と真正性	社会調査における調査倫理、また調査における確からしさについて学ぶ。
第 4 回	フィールドワークの光と影 1	文献から実例を学ぶ。
第 5 回	フィールドワークの光と影 2	文献から実例を学ぶ。
第 6 回	フィールドワークの光と影 3	受講生各自の研究テーマにおけるフィールドワーク調査の活用について討議する。
第 7 回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わす 1	文献から実例を学ぶ。
第 8 回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わす 2	受講生各自の研究テーマにおけるライフヒストリー研究の活用について討議する。
第 9 回	テキストデータの分析 1	文献から実例を学ぶ。
第 10 回	テキストデータの分析 2	文献から実例を学ぶ。
第 11 回	テキストデータの分析	受講生各自の研究テーマにおけるテキストデータや映像資料の分析の活用について討議する。
第 12 回	社会関係を計量する 1	文献から実例を学ぶ。
第 13 回	社会関係を計量する 2	受講生各自の研究テーマにおける量的データの分析とその活用について討議する。
第 14 回	各自の問題関心に基づく調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したリサーチデザインの報告レジュメを作成すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
上記授業計画の「内容」に記載。

【参考書】
各回ごとで授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加 30 %、報告の内容評価 30 %、筆記試験 40 %。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることを求める。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
学生支援システムへの PC によるアクセスが必須。

【その他の重要事項】
専門社会調査士資格の H 科目に該当する。
博士後期課程「社会調査法１」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞臨床社会学
＜主要研究業績＞三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【Outline (in English)】
In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. They will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics, recent excellent research, and the research of the instructor. In addition, They will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、in class presentation : 30%、in class contribution: 30%

SOC500E1 － 1305

質的資料分析法

堀川　三郎

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会調査法３」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】
さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第 2 回	質的調査法の歴史と到達点 1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第 3 回	質的調査法の歴史と到達点 2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／ GTA ／会話分析
第 4 回	実践的課題 1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第 5 回	実践的課題 2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第 6 回	実践的課題 3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第 7 回	ワークショップ 1	データ・質的資料の持ち寄り
第 8 回	ワークショップ 2	最初の感想とそこから見えるもの
第 9 回	ワークショップ 3	どう記録をつくるのか
第 10 回	ワークショップ 4	テーマをたてる
第 11 回	ワークショップ 5	データの特性を理解する
第 12 回	ワークショップ 6	改めてテーマをたてる
第 13 回	ワークショップ 7	ふたたびデータの特性を考える
第 14 回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
１．岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法』有斐閣
２．佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法：理論・方法・実践』新曜社

【成績評価の方法と基準】
討議への参加（40%），演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】
非該当（N/A）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学，都市社会学
＜研究テーマ＞歴史的環境保存の社会学，日米比較社会論
＜主要研究業績＞『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』（東京大学出版会，2018 年），*Why Place Matters* (Springer, 2021) など

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.
First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.
Learning Objectives
Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.
Learning Activities Outside Class
Standard duration for preparation and review will be two hours each.
Assessment
Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC600E1 － 2100

メディア社会学基礎演習１

土橋　臣吾

備考（履修条件等）：**「メディア社会学基礎演習３」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】
メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
メディア研究を進めるにあたっての基礎的な文献を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に実施し、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアコースおよび演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第 2 回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第 3 回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第 4 回	ポストメディア時代のメディア研究	メディア研究基礎
第 5 回	マシンとしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 6 回	マシンとしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 7 回	フォルム／フォーマットしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 8 回	フォルム／フォーマットしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 9 回	欲望としてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 10 回	欲望としてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 11 回	メディアのアルケオロジー (1)	メディア研究基礎
第 12 回	メディアのアルケオロジー (2)	メディア研究基礎
第 13 回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第 14 回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

【テキスト（教科書）】
伊藤守編（2021）『ポストメディア・セオリーズ：メディア研究の新展開』ミネルヴァ書房.
ただし、受講生の人数、希望などによって扱う文献を変更する可能性がある。

【参考書】
講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習内での報告（70 %）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】
指定教科書を、より多く、かつ最新の研究事例に触れることのできる文献に変えました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞メディア論、オーディエンス／ユーザー研究

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC600E1 － 2101

メディア社会学基礎演習２

小林　直毅

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアコースに入学した大学院生として求められる、メディア研究の基礎となる理論と方法を学ぶ。けっしてメディアの世界だけに内向きに狭く閉じこもった問題構成を図ることなく、社会的現象や社会的課題を学術的に考察していくために、人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディアの可能性と課題を広範、かつ系統的に解明することのできる研究資質の形成を図る。

【到達目標】
メディア研究が、どのように問題構成を図り、研究目標を設定し、どのような研究成果を、どのようにして学術論文としてまとめていくべきかを理解し、実践していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
メディア研究の基礎として不可欠な理論と方法、その実践的可能性を論じたテキストを、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、毎回、報告とディスカッションを重ねていく。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第 2 回	研究テーマと問題構成	夏季休暇中の研究成果に即した、分担報告の決定。
第 3 回	メディア研究とは何か（1）	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第 4 回	メディア研究とは何か（2）	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第 5 回	理論と方法（1）	テキスト 79～130 頁「テクストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第 6 回	理論と方法（2）	テキスト 79～130 頁「テクストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第 7 回	問題構成の視点（1）	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第 8 回	問題構成の視点（2）	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第 9 回	中間総括	これまでの報告と議論を振り返って、全員でディスカッション。
第 10 回	実践的課題（1）	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第 11 回	実践的課題（2）	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第 12 回	メディア研究の課題（1）	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第 13 回	メディア研究の課題（2）	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第 14 回	総括討論	メディア研究としての各自の論文構想について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ロジャー・シルバーストーン（吉見俊哉、伊藤守、土橋臣吾訳）『なぜメディア研究か――経験・テクスト・他者――』せりか書房。

【参考書】
伊藤守編著（2009）『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房。
他の参考文献等は、授業を進める過程で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
分担報告（50%）、ディスカッション（50 %）の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
メディア文化研究
＜研究テーマ＞
メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究
＜主要研究業績＞
『メディアテクストの冒険』（世界思想社、2003 年）
『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003 年）
『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004 年）
『水俣学講義 [第２集]』（共著、日本評論社、2005 年）
『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006 年）
『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007 年）
『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007 年）
『ポピュラーＴＶ』（共著、風塵社、2009 年）
『放送番組で読み解く社会的記憶―ジャーナリズム・リテラシー教育への活用―』（共著、日外アソシエーツ、2012 年）
『メディア・リテラシーの現在―公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013 年）
『ニュース空間の社会学―不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014 年）
『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018 年）

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, in order to consider social phenomena and social issues academically, we aim to form research qualities that can broadly and systematically illuminate the possibilities and issues of the media.
Learning objectives:
The goal of this course is to understand how media studies should structure problems, set research goals, and summarize what research results are in academic papers.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC600E1 － 2102

メディア社会学基礎演習３

土橋　臣吾

備考（履修条件等）：**「メディア社会学基礎演習１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】
メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
メディア研究を進めるにあたっての基礎的な文献を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に実施し、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアコースおよび演習の進め方に関する説明	授業全体のイントロダクション
第 2 回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第 3 回	参加者の研究計画に関する報告	研究計画報告
第 4 回	ポストメディア時代のメディア研究	メディア研究基礎
第 5 回	マシンとしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 6 回	マシンとしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 7 回	フォルム／フォーマットしてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 8 回	フォルム／フォーマットしてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 9 回	欲望としてのメディア (1)	メディア研究基礎
第 10 回	欲望としてのメディア (2)	メディア研究基礎
第 11 回	メディアのアルケオロジー (1)	メディア研究基礎
第 12 回	メディアのアルケオロジー (2)	メディア研究基礎
第 13 回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告
第 14 回	参加者の研究の進捗状況に関する報告	研究進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

【テキスト（教科書）】
伊藤守編（2021）『ポストメディア・セオリーズ：メディア研究の新展開』ミネルヴァ書房.
ただし、受講生の人数、希望などによって扱う文献を変更する可能性がある。

【参考書】
講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習内での報告（70 %）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】
指定教科書を、より多く、かつ最新の研究事例に触れることのできる文献に変えました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞メディア論、オーディエンス／ユーザー研究

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aim of this course is to help students understand current trends in media theory and media research.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to understand how to set research goals and methods as a graduate student in a media course.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Presentations and reports(70%), in-class contribution(30%).

SOC500E1 － 2200

メディア理論１（メディアの歴史と思想）

小林　直毅

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代史上の重要な出来事の経験とその記録と記憶をめぐる身体の技術的、制度的な変容を、さまざまなメディアの歴史と思想として考察する。

【到達目標】
当面する諸現象、諸課題を、仮構的な「メディアの世界」だけに内向きに狭く閉じ込めて自己完結する「メディア研究」から脱却して、「人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディア」の歴史と思想を問い直すメディア研究の可能性と課題を考察できるようになることが、この授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テッサ・モーリス=スズキ『過去は死なない――メディア・記憶・歴史』をテキストとして、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、報告とディスカッションを重ねていく。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第 2 回	この授業の問題構成	参加者の研究テーマに即した分担報告の決定。
第 3 回	過去は死なない（1）	テキストの第１章前半の分担報告。
第 4 回	過去は死なない（2）	テキストの第１章後半の分担報告。
第 5 回	想像しがたい過去（1）	テキストの第２章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第 6 回	想像しがたい過去（2）	テキストの第２章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第 7 回	レンズに映る影（1）	テキストの第３章前半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第 8 回	レンズに映る影（2）	テキストの第３章後半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第 9 回	活動写真（1）	テキストの第４章前半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第 10 回	活動写真（2）	テキストの第４章後半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第 11 回	視角（1）	テキストの第５章前半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第 12 回	視角（2）	テキストの第５章後半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第 13 回	ランダム・アクセス・メモリー	テキストの第６章の「多メディア時代の歴史」をめぐる考察の分担報告。
第 14 回	"歴史への真摯さ"の政治経済学に向かって	テキスト第７章の分担報告と総括討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テッサ・モーリス=スズキ（田代泰子訳）『過去は死なない――メディア・記憶・歴史――』岩波現代文庫。

【参考書】
「参考文献リスト」を配布する。

【成績評価の方法と基準】
分担報告と討論における達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
メディア文化研究
＜研究テーマ＞
メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究
＜主要研究業績＞
『メディアテクストの冒険』（世界思想社、2003 年）
『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003 年）
『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004 年）
『水俣学講義［第２集］』（共著、日本評論社、2005 年）
『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006 年）
『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007 年）
『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007 年）
『ポピュラーＴＶ』（共著、風塵社、2009 年）
『放送番組で読み解く社会的記憶―ジャーナリズム・リテラシー教育への活用―』（共著、日外アソシエーツ、2012 年）
『メディア・リテラシーの現在―公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013 年）
『ニュース空間の社会学―不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014 年）
『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018 年）

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, you will be able to consider the technical and institutional transformation of the body over the experience of important events in human history and their records and memories as the history and thought of the media.
Learning objectives:
The goal of this course is to break away from "media studies" that are narrowly confined inward and self-contained, and to re-examine the history and ideas of "media as a technology and institution that enables human recognition and existence."
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC500E1 － 2201

メディア理論２（ニュースフレーム論）

藤田　真文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニュースフレーム論の基礎な文献を読解していきます。受講生が自らの学位論文の先行研究や方法論にニュースフレーム論を展開できる知見を得ることが授業の目的です。

【到達目標】
ニュースフレーム論の文献読解を通じ、ニュースフレーム論の基礎的な概念や知見について理解している。受講生が自らの学位論文でニュースフレーム論を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ニュースフレーム論の基礎文献の中でも重要な章を選び、受講生にレポーターをしてもらいながら演習形式で授業を進めていきます。講義の最終段階で受講生自らが学位論文へと展開できる文献を選び考察するペーパーを書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	本講義の進め方解説	ガイダンス
第 2 回	烏谷昌幸（2016）読解	文献読解演習
第 3 回	藤田真文（2021）読解	文献読解演習
第 4 回	藤田真文（2022）読解	文献読解演習
第 5 回	Scheufele（1999）読解	文献読解演習
第 6 回	Entman（1993）読解	文献読解演習
第 7 回	Chong&Druckman（2007）読解	文献読解演習
第 8 回	D'Angelo&Kuypers,eds（2010）「第 1 論文」読解	文献読解演習
第 9 回	D'Angelo&Kuypers,eds（2010）「第 2 論文」読解	文献読解演習
第 10 回	D'Angelo&Kuypers,eds（2010）「第 3 論文」読解	文献読解演習
第 11 回	D'Angelo&Kuypers,eds（2010）「第 4 論文」読解	文献読解演習
第 12 回	D'Angelo&Kuypers,eds（2010）「第 11 論文」読解	文献読解演習
第 13 回	D'Angelo&Kuypers,eds（2010）「第 14 論文」読解	文献読解演習
第 14 回	最終ペーパーのためのガイド	ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
烏谷昌幸,2016,「メディア・フレーム論の批判的再検討:『ジャーナリズムと社会的意味』研究のための一考察」『法學研究:法律・政治・社会 』89,(5):1-50.
藤田真文,2021,「ニュース・フレーム論の理論的射程と空間定位（前編）」,『社会志林』68(3), 13-29.
藤田真文,2022,「ニュース・フレーム論の理論的射程と空間定位（後編）」,『社会志林』68(4), 1-17.
Scheufele,D.A.,1999,"Framing as a Theory of Media Effects,"Journal of Communication,49(1),103-122.
Entman,R.M.,1993,"Framing:Toward Clarification of a Fractured Paradigm," Journal of Communication,43(4):51-58.
Chong,D.,&J.N.Druckman,2007, "A Theory of Framing and Opinion Formation in Competitive Elite Environments,"Journal of Communication,57(1),99-118.
以上は授業時に PDF で配布します。
D'Angelo,P,&J.A.Kuypers,eds.,2010,Doing News Frame Analysis :Empirical and Theoretical Perspectives,New York.Routledge.(ペーパーバック版 7,392 円　Kindle 版 6,686 円)

【参考書】
参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】
授業時の報告（50%）
レポーターとして各回の文献について要約報告ができている。レポータではない時には、適切にディスカッションに参加できていること。
最終ペーパー（50%）
自ら選択したニュースフレーム論の文献に関して適切に理解し、学位論文に展開する見通しができていること。

【学生の意見等からの気づき】
今年度初めて担当するため特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マス・コミュニケーション論、メディア論
＜研究テーマ＞ニュースの言語分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」を参照してください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001537/profile.html

【Outline (in English)】
【Course outline】【到達目標（Learning Objectives）】
In this class, we will read the basic literature on news frame theory. The goal of the class is to provide students with the knowledge to develop news frame theory into a review of prior research and methodology for their own dissertations. The class will be conducted in the form of exercises, with students acting as reporters for selected important chapters in the basic literature on newsframes.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students will be asked to write a paper in which they discuss their own selection of literature that can be developed into a dissertation.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to have read the basic literature for each session prior to the lecture.
【Grading Criteria /Policy】
Report in class (50%)
As a reporter, the student is able to give a summary report on the literature for each session. When not a reporter, the student should be able to participate in discussions appropriately.
Final paper (50%)
Demonstrate an appropriate understanding of the newsframe literature selected by the student and the prospect of developing this understanding into a dissertation.

SOC500E1 － 2202

メディア理論３（ジャーナリズム・スタディーズ）

別府　三奈子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主社会におけるジャーナリズムの機能や役割について、ジャーナリストの実践を規定している原理・原則を踏まえ、古今東西の事例をもとに、観察・検討する。DX 化のなかで、言論の自由の概念の普遍性と変化の両側面を観察し、専門職能論としてのジャーナリズム・プロフェッション論に関する理解を深める。

【到達目標】
民主社会におけるジャーナリズムの社会的役割や意義、ジャーナリストの仕事の難しさや責任について、具体的な事例を観察しながら、理解を深める。また、マス・コミュニケーション理論の観点から、その意義を掘り下げて考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
今のところ、多摩キャンパスでの対面授業を予定している。授業で映像資料を観察したうえで、事前リサーチの発表、概説、テーマディスカッションなどを行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	言論の自由史概説
第 2 回	ジャーナリズムと社会改良主義	プロフェッション論の視座
第 3 回	事例１：ベトナム機密文書の告発	民主社会における国家機密と言論の自由の攻防
第 4 回	ニュースソースの扱い方	内部告発者への罰則と保護
第 5 回	事例２：神父による児童性虐待	社会問題の可視化と共有
第 6 回	被害者の声を拾うことの難しさ	被害者の声を伝えることの是非
第 7 回	事例３：原発事故	社会に警鐘をならす
第 8 回	企業益と公益の対峙	記録できない場所で起こる問題への社会的想像力
第 9 回	事例４：国家機密情報の暴露	個人情報は誰のものか
第 10 回	監視社会の安全性とリスク	プラットフォームからの監視
第 11 回	事例５:法廷における加害者と被害者	判断の根拠を社会的共有する
第 12 回	フレーム理論からの検討	加害者・被害者それぞれのイメージ
第 13 回	沈黙の螺旋理論からの検討	調査報道の意義
第 14 回	ジャーナリズムのありかたをめぐる討議	争点が提示する視野

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う事例の事前視聴、争点に関する自分の立場を支える根拠のリサーチ、自分の意見を発表するための準備（レジュメ作成）。毎週、2 時間くらいを要する。

【テキスト（教科書）】
授業で指定する予定（刊行準備中）

【参考書】
『調査報道ジャーナリズムの挑戦 ―市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業内での討議内容　50 %、期末レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
国によって異なる政治制度と、それによって異なるジャーナリズムの関係について、わかりやすい解説を提供する。

【学生が準備すべき機器他】
指定テキストの購入と、予習で使う資料映像の視聴ができる PC

【その他の重要事項】
日々、ニュースに接する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞米国ジャーナリズム思想史
＜主要単著＞『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006 年。『アジアでどんな戦争があったのか　戦跡を辿る旅』めこん、2006 年。

【Outline (in English)】
（Course outline）We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism in democracy society, through the cases of in east and west with historical approach.
（Learning activities outside of classroom）Preliminary viewing of case studies to be covered in class, research on grounds supporting one's position on the issue, and preparation for presenting one's opinion (creating a resume). It takes about 2 hours each week.
（Grading Criteria /Policy）Discussed content in class: 50%, final report: 50%

SOC500E1 － 2205

メディア特殊研究１（ブランド広告の意味研究）

青木　貞茂

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえ明らかにする。

【到達目標】
現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明るみに出し、ともに情報の意味についての考察を深めていく。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第 2 回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第 3 回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第 4 回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第 5 回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第 6 回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する手法
第 7 回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第 8 回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第 9 回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第 10 回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第 11 回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第 12 回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第 13 回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第 14 回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要と授業全体でのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間２時間、復習時間２時間、1 回につき計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】
津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』（ミネルヴァ書房、2003 年）
佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』（新曜社、2012 年）
他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、課題レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
理論についての理解を深めるため、より詳細な説明を行なうことを実施する。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞広告論、ブランド論
＜研究テーマ＞文化と広告、ブランド、マーケティング
＜研究業績＞単著『文脈創造のマーケティング』（日本経済新聞社、1994 年）、『文化の力』（NTT 出版、2008 年）
共著『記号化社会の消費』（ホルト・サウンダース・ジャパン、1985 年）、『広告の記号論』（日経広告研究所、1987 年）、『文化の消費が始まった』（日本経済新聞社、1989 年）、『広報・広告・プロパガンダ』（ミネルヴァ書房、2003 年）、『ソフト・パワーのメディア文化政策』（新曜社、2012 年）
共訳書としてレイモア『隠された神話』（日経広告研究所、1985 年）

【Outline (in English)】
In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.
In today's society, brands are entities of such great significance and value that they cannot be ignored in our daily lives. Using methods such as structuralism and semiotics, the aim of this course is to be able to analyze and understand the structure and meaning of advertising information, what creates a brand, and how it works and influences us. Students will take an active interest in, and gather information about, brands and their advertising communication in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard duration of this course is two hours of preparation and two hours of review, for a total of four hours per session. Evaluation is based on ordinary points (70%) and assignment reports (30%).

SOC500E1 － 2208

メディア特殊研究４（ソーシャルメディア論）

藤代　裕之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題と可能性を考えます。

【到達目標】
ソーシャルメディア社会のあり方を理解し、課題と可能性を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教科書の予習を前提に質疑や議論を行います。現在進行形で起きるメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第 3 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第 4 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（共同規制）
第 14 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%。平常点は、授業中の発言や質問などで判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
受講希望者はガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」を確認してください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html

【Outline (in English)】
This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.
The goals of this course are to understanding social media and media literacy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

SOC500E1 － 2209

メディア社会学特殊研究１（知的財産権）

白田　秀彰

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が、知的財産権制度全体の構造を把握したうえで、とくに著作権制度について理解し、個別事例に対応して具体的に判断できることを目的とする。

【到達目標】
『著作権法判例百選 第六版』に掲載されている事件の概要と判決理由を読み、自分なりの見解を形成できること。また、当該事件の解説を読み、自分なりの見解との異同について論理的に評価できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
大学の方針として対面が義務付けられているので、対面で行う。疫病や事故等のやむを得ない事情の場合は、他の方法での講義が行われる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび法律学に関する基礎	講義の方針を示し、法律学に関する基礎的事項を確認する。
第 2 回	知的財産制度の概観	知的財産権制度の構造。特許・商標・意匠等工業所有権と著作権について解説する。
第 3 回	創作発明概念と模倣	各法における発明・創作と模倣の異同について解説する。
第 4 回	特許・商法・意匠	各法についての概説。
第 5 回	著作権の概観と著作物	著作権法の全体解説と著作物の概念について。
第 6 回	著作物と派生的著作物	二次的著作物・編集著作物等の派生的著作物について。
第 7 回	著作者と著作者人格権	著作者の概念と著作者人格権について。
第 8 回	著作権の制限	著作権が制限される場合について。
第 9 回	著作隣接権	著作隣接権について。
第 10 回	特殊・例外的な規定	著作権法のなかの特殊また例外的な規定について整理する。
第 11 回	事例研究 1	二次的著作物に関して。
第 12 回	事例研究 2	著作者本人が権利者とならない事例に関して。
第 13 回	事例研究 3	新しいメディア事業への制約に関して。
第 14 回	事例研究 4	アニメ・マンガ・ゲームにみられるキャラクターに関して。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
しかし、通常であれば一年以上かかる著作権法を数回の講義で把握し、判例について検討する能力を獲得するためには、5-10 回の講義のあたりではさらに数時間以上の教科書の熟読が必要になるだろう。

【テキスト（教科書）】
小泉直樹 他編 『著作権判例百選 第六版』別冊ジュリスト, No. 242, 有斐閣 2019 を必須教科書とする。

【参考書】
講義では参考として用いるが、予習復習および自習のため用いるものとして、中山信弘 『著作権法 第三版』有斐閣 2020 を指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点によって評価する。100%

【学生の意見等からの気づき】
語らねばならない内容が多いので進行はやむを得ず早くなる。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 情報法・知的財産権法
＜研究テーマ＞ 情報技術による自由と情報技術からの自由
＜主要研究業績＞
「マンガ・アニメ・ゲームの人物表現における類似判定に関する調査報告」「マンガ・アニメ・ゲームにおけるキャラクターの本質的特徴について」信山社 2017
『性表現規制の文化史』亜紀書房 2017
『インターネットの法と慣習』ソフトバンク 2007
『コピーライトの史的展開』信山社 1997

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
The purpose of this course is for students to understand the structure of the intellectual property rights system as a whole, to understand the copyright system in particular, and to be able to make concrete decisions in
response to individual cases.
【Learning activities outside of classroom】
In this class, it is standard for students to spend two hours each on preparation and review.
In order to acquire the ability to understand copyright law and examine judicial precedents in a few lectures, it is necessary to read textbooks for more than several hours in 5 to 10 lectures.
【Grading Criteria /Policy】
Students will be assessed on a regular basis in this class. 100%

SOC500E1 － 2216

メディア研究実習 1

山口　仁

備考（履修条件等）：**2022 年度以前「調査報道実習 1 」を修得済みの場合は履修不可**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術的なメディア研究（特に報道分析）に向けた実践的演習を行う。受講生は学術的な報道分析の手法を習得し、研究成果（例えば、修士論文、博士論文、学会発表、投稿論文）として完成させることを目的とする。

【到達目標】
実際に報道分析を行っている学術論文や学術書をレビューしながら、その手法を具体的に学んでいく。その上で受講生は具体的事例を自ら設定し、それに関する報道の分析を繰り返し演習として行っていく。そして研究報告や論文執筆が出来るようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式を採用する。具体的には学術論文・学術書の輪読・報告、課題の事例分析の発表・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報道分析とは何か	現在のメディア・ジャーナリズム研究において具体的に報道を分析する意義について講義をする。「理論を用いて事例を解釈するのか」、「事例の分析を通じて理論を説明するのか」を分けて考えることの重要性について解説する。
第 2 回	報道分析に関する先行研究レビュー①（輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。
第 3 回	報道分析に関する先行研究レビュー②（講義・輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。できれば、”問題ある”報道分析についても明らかにしていきたい。
第 4 回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション①	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第 5 回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション②	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第 6 回	各自の分析報告①	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第 7 回	各自の分析報告②	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第 8 回	各自の分析報告③	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第 9 回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する①	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第 10 回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する②	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第 11 回	担当教員による報道分析の解説（演習）	担当教員が実際に行ってきた、もしくは行っている報道分析について自己反省的に解説する。
第 12 回	報道分析を研究発表するための実習①	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第 13 回	報道分析を研究発表するための実習②	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第 14 回	報道分析を研究発表するための実習③、まとめとふりかえり。	半年間の授業を振り返り、自らの研究へと反映させていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題論文・図書の輪読用資料を作成する。報告のための準備をする。講評・コメントを自身の研究に反映する。授業 1 回あたりの準備時間と復習時間はそれぞれ 2 時間（計 4 時間）を基準とする。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書は無い。

【参考書】
山口仁（2018）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房、4500 円（税別）
山腰修三編（2022）『対立と分断の中のメディア政治』慶應義塾大学出版会、3200 円（税別）
…担当者が行った報道分析をまとめた著書・編著。

【成績評価の方法と基準】
報告や発表などの平常点（50%）と期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の研究の進捗状況を把握したうえで、実習を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
輪読や分析報告の形式は自由ですが、パワーポイントなどのスライドでも紙媒体のレジュメ形式でも対応できることが望ましいです。

【その他の重要事項】
兼任講師なので特定の時間のオフィスアワーはありません。受講生にはメールアドレスをお伝えしますのでそちらに連絡するようにしてください。
対面授業を予定しておりますが、コロナ感染状況の深刻化によって大学がオンライン授業に切り替えるなどのやむを得ない事情がある場合は授業形式形式を変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ジャーナリズム論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ジャーナリズムに関する社会構築主義的研究
＜主要研究業績＞『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実（2018 年・勁草書房）』

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire skills in academic news analysis. The goals of this course are to analyze news articles and write a academic report. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

SOC500E1 － 2217

メディア研究実習２

北原　利行

備考（履修条件等）：2022 年度以前「調査報道実習２」を修得済みの場合は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネット上ではフェイクニュースや炎上、あるいは名誉毀損、誹謗中傷などさまざまな問題が指摘されているが、その一方で人々の情報摂取行動はどんどんインターネットに移行しつつある。その結果、旧来のマスメディア（新聞、放送、出版、映画など）の地位は相対的に低下し、インターネットの SNS やさまざまなメディア、サービスが興隆しているようにも見える。その一方でニュースの提供者はマスメディアの報道機関が主流を占めており、放送や映画からさまざまな番組コンテンツか提供されている。従来のメディアごとに独立したアプローチでメディア、コミュニケーション上のさまざまな事象を捉えることが困難になっている。さらにはインターネットによって従来の垂直統合型のメディア構造が解体され、インターネットという一つのプラットフォームでアクセスできるようになったことでメディアの概念が変わってしまい、旧来のメディアの概念が流動的になり、コンテンツそのものがメディアとして捉えられるようにもなってきている。従来の発信者、受信者は相対化し固定化した明確な区分もなくなりつつある。メディア、コミュニケーションの社会的機能を捉え直し、それを支えるビジネス構造的な視点も含めて、メディアやコミュニケーション、さらにはコンテンツのあり方について考察し、現代社会におけるそれらの上で起きているさまざまなコミュニケーション上の諸問題への分析手法、解決の方策について論じる。特にマスメディアとソーシャルメディアの関係について双方の立場から論じることができるクリティカルな視点の獲得を目指す。

【到達目標】
メディア、コミュニケーションについての基礎的な理論の習得。メディア、コミュニケーションの全体像の俯瞰、比較のために多種・多様なメディアについての俯瞰や理解、インターネット上のコミュニケーション、ソーシャルメディアなどについての理解、消費者・生活者の情報摂取行動についての基礎的な知識の習得を最初に講義形式で行うその上でマスメディア、インターネット上でのコミュニケーションなどの現状におけるさまざまな諸問題についての分析力および課題解決のための論理的構築できるスキルを習得する。必要に応じて具体的な調査手法や調査実践などについてもとりあげる。また、プレゼンテーションスキルの向上も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習形式で行う。
講義については、レジュメを配布し、内容に沿って説明し、受講者に対して問題提起し、リアクションについての議論を行うことで、インタラクティブな形式で進行させる。講義が終了した後に復習もかねてリアクションペーパー的な課題を課する予定。
受講者の問題意識をもとに、課題解決のための演習形式を取り入れて、受講者との間でのディスカッションを行い、課題解決のための思考を深めスキルの向上を図る。
授業内容については、受講者の関心領域などに対して柔軟に対応するので、下記の授業計画からの変更の可能性もある。
アクティブラーニングに関しては、途中に設ける予定。
授業形式については対面講義を基本とするブレンド授業形式またはハイフレックス授業形式を想定しているが、受講者の要望、社会環境の変化などに柔軟に対応する。便宜的に講義形式は対面としてあるが、受講生と相談の上形式を決定する。
第一回目の講義に関しては学生の対面参加での可否を確認するためにオンラインで実施する。その結果をもとに二回目以降の講義の仕方について対応を検討する。
課題等に関しては適宜必要に応じて実施するが、フィードバックに関しては講義内もしくは学習システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講者の問題関心の確認 メディア、コミュニケーションについての全体像の俯瞰、基礎理論の確認
第 2 回	メディア論	メディア論の基礎、マスメディア論について
第 3 回	コミュニケーション論①	コミュニケーション論の基礎、多種多様なコミュニケーションの形態について
第 4 回	コミュニケーション論②	インターネットを中心としたコミュニケーションの解析
第 5 回	新聞	新聞産業の構造、新聞の受容、ジャーナリズムなどの諸問題について
第 6 回	テレビ・ラジオ	テレビ・ラジオ産業の構造、テレビの受容、視聴率などの諸問題について
第 7 回	出版	出版産業の構造、書籍・雑誌の受容、電子出版などの諸問題について
第 8 回	映画・アニメ、その他	映画産業、アニメ産業の構造、その受容、その他メディアなどの諸問題について
第 9 回	インターネット	インターネットの構造、消費者の情報摂取行動、コミュニケーションの諸相
第 10 回	インターネットサービス、コンテンツ	インターネット上のメディア、サービスを他のメディアとの対比で分析する。インターネット上での諸問題の検討。
第 11 回	ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの現状、多のメディア、コミュニケーションとの関係性
第 12 回	コンテンツ	音楽、ゲームなど上記メディアでは捉えきれなかった部分について
第 13 回	演習	受講者の問題意識にそって演習形式で課題の検討を行う。
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に、新聞やテレビなどの多くのメディアに幅広く意識的に接触すること。インターネット上のサービス等についても積極的に把握する。特に SNS の活用を通じて現状の諸問題についての理解を深めておくこと。
講義内容に沿って生じた疑問などを参考書などを中心に予習・復習する。
日常より問題意識を持って、メディア、コミュニケーション上の諸問題について批判的に捉えることで受講者自身が設定した演習課題についての考察を深める。
授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。準備よりも復習に重点を置くこと。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書は使用しない。講義の都度レジュメ、資料等を配布する。

【参考書】
吉見俊哉『メディア文化論－メディアを学ぶ人のための 15 話』(有斐閣)、佐藤卓己『メディア社会―現代を読み解く視点』(岩波書店)、M. マクルーハン『メディア論』(みすず書房)，L．レッシグ『REMIX』(翔泳社)、電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』(ダイヤモンド社) など。
講義内でも関連参考書について紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (講義、課題への参加度)　60%
期末レポート　40%

【学生の意見等からの気づき】
アニメーション市場関連についての要望が多い。また既存のメディアとソーシャルメディアの関係についての関心が高い。また、マスメディアについての現状の整理についても一定のニーズが存在している。

【学生が準備すべき機器他】
諸連絡、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
電通総研、電通コミュニケーションラボにおいて、マスメディア、コミュニケーションについてのリサーチ、コンサルティングなどに従事。それらの経験に基づいて、多角的・俯瞰的に講義を行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
メディア、コミュニケーション、広告
＜研究テーマ＞
マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷
＜主要研究業績＞
「コロナ禍で進んだ新聞のＤＸ――「2020 年日本の広告費」から見る動向」、2021 年 4 月、新聞研究
{地方紙が地域課題解決の核にカギは当事者報道にあり}、2017 年 7 月、朝日新聞 Journalism
「2018 広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」(共著)、2017 年 12 月、日経広告研究所
「情報メディア白書」(共著)、2007 年～、ダイヤモンド社

【Outline (in English)】
Various problems have been pointed out on the Internet, such as fake news, flames, defamation, slander, etc. On the other hand, people's information intake behavior is increasingly shifting to the Internet. As a result, the status of the old mass media (newspapers, broadcasting, publishing, movies, etc.) seems to be declining relatively, while SNS and various other media and services on the Internet are flourishing. On the other hand, mass media outlets continue to be the main providers of news, and a variety of program content is provided by broadcasting and film. It has become difficult to capture various media and communication events with the traditional media-independent approach. Furthermore, the Internet has dismantled the traditional vertically integrated media structure, and the concept of media has changed as it can now be accessed through a single platform, the Internet. The old concept of media has become fluid, and content itself can now be viewed as media. Traditional senders and receivers are becoming relative and there is no longer a fixed and clear division between them. This lecture will reevaluate the social functions of media and communication, and discuss the state of media, communication, and content, including the business structure that supports them, as well as analytical methods and solutions to various communication problems occurring in contemporary society. The lecture will discuss analytical methods and solutions to the various communication problems that arise in today's society. In particular, we aim to acquire a critical perspective that enables us to discuss the relationship between mass media and social media from both perspectives.
[Learning activities outside of classroom]
Be proactive and have broad, conscious contact with a number of media outlets, including newspapers and television.
Actively keep abreast of Internet services, etc. In particular, deepen your understanding of current issues through the use of social networking services.
Standard class preparation and review time is 2 hours each. It is more important to review than to preparation.
[Grading Criteria/Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Participation in lectures and assignments 60%
Final report 40%

SOC500E1 － 2218

メディア研究実習３

髙瀬　文人

備考（履修条件等）：**2022 年度以前「取材文章実習」を修得済みの場合は履修不可**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャーナリズムのコンテンツ、ことに取材文章は「事実に基づいた思考とその表現」と言い表すことができる。事実を集め、評価し、導き出される論理を展開し、適切に表現する方法は、ジャーナリズムや学問に限らず全ての思考の基本であり、その重要性はますます高まっている。この授業では、ジャーナリズムの基本的な論理構成や表現方法を学び、自分の思考法と関連づけて身につける。

【到達目標】
・取材文章がどのような構造で作られているかを分析し、理解できる。
・新聞、雑誌、書籍、ウェブなどの媒体ごとに異なる、文章の特徴を理解できる。
・問題意識、事実の見かた、収集と整理、論理の展開と論証の基本的な技術を身につける。
・事実の確認と評価の方法を理解できる。
・インタビューをはじめとする取材方法を学ぶ。
・学んだ方法論をもとに、事実を知らせる文章を書く。
・学んだ方法論をもとに、複数の事実から新しい価値を生み出す文章を書く。
・他者が書いた文章を読解し、校正し、向上のための方針を立てる。
・媒体に合わせた発信方法を考え、文章を書き、仕上げる。
・取材者・表現者としての自らとメディア、そして社会との関わり合いについて考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況、また授業の内容によって、オンラインを併用することも考えられる。その都度、学生と打ち合わせの上決定したい。
「書く」ことで思考を深める授業の特性上、全体を通じて時間内に、あるいは課題として短い作文、あるいは取材に関連する簡単な作業を課し、それについての討論・添削を予定している。
授業は基本的に討論形式とし、講師と受講者、または受講者同士の討論を活発化することで気づきや深まりを期待する。
また、日本語文法などの短いレクチャーを適宜行い、より文章のスキルを高められるように授業を設計する。
受講生の関心などを考慮し、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ジャーナリズムの発想とその思考法	ジャーナリズムとは何なのか。その原初的動機から、メディアの記事として作り上げ、それが社会に影響を与えるまでを概観する。
第 2 回	取材・整理・執筆プロセスとそれぞれの論理構造	事実の収集、その整理、文章表現によって完成される記事の制作プロセスは一貫して論理によって考える場である。その操作を考え、実習する。
第 3 回	「ニュースバリュー」と「キャンペーン」——社会を動かすメカニズム	記事を発表し、それが社会を動かすメカニズムは。報道が社会を動かす構造を知る。
第 4 回	表現方法と伝達手段の変化——ネットメディアの勃興とレガシーメディアの変容	ネットはニュースの伝わり方を変えたのみならず、ニュースそのものを変えたと言える。その構造を分析する。
第 5 回	誤報と「フェイクニュース」の差異と、その攻防	社会や国同士で分断が進んでいる。フェイクニュースはそれを助長するために仕掛けられることがある。その構造を分析する。
第 6 回	取材文章思考①テーマとリサーチ	取材の出発点である「発想」、方向性を決めるための情報収集である「リサーチ」はどのようにしたらよいか、どんな手段があるか。簡単な実践をしながらそれらの「方法」を身につける。
第 7 回	取材文章思考②取材と情報整理	「取材」とは何をするのか。取材文章思考①での準備を踏まえて取材計画をどのように立て、実行するかを、「取材執筆実習」の回に向けて計画する。取材をどのように記録し、情報を整理するかを学ぶ。簡単なワークショップを行う予定。
第 8 回	取材文章思考③伝えるための文章の構造・執筆のルール	取材で得、整理した事実を組み立て、執筆の方向性を決め、執筆にかかる。その論理の組み立てと、文章の基本について、簡単なワークショップを行う予定。
第 9 回	取材執筆実習①取材・インタビューの実際	実際にインタビューを行う実習回。
第 10 回	取材執筆実習②情報整理と執筆の実際	取材で得た情報を整理し、筋書きにまとめ、執筆する作業を行う。授業時間内に終えることができない場合は、課外の時間を使って仕上げることも想定される。
第 11 回	取材執筆実習③中間まとめと発表	第 9 回で取材した文章をいったんまとめて発表し、受講者相互・講師によって不足している観点や取材などをチェックし、完成に向けて進める。
第 12 回	取材執筆実習④発信を踏まえた編集実習	受講生は、他の受講生が仕上げた原稿を、編集者の立場になって読み、校正し、よりよい内容になるよう添削・アドバイスする。受講生はそのアドバイスに従い、自らの原稿をさらにブラッシュアップする。
第 13 回	取材執筆実習⑤原稿の完成・発表	完成した原稿を発表、受講生と講師によって合評する。新聞、雑誌、放送、ネットなど、媒体によって適した文章の書き方がある。自分の記事をそれぞれの媒体で発信することを考えて、バリエーションを作ってみる。
第 14 回	媒体に合わせた文章表現、取材スキルとジャーナリズム、そして社会との関係	講義全体を通して得たスキルを振り返り、受講生自身の、これからのものの見方、考え方、表現のしかたにどう影響したかを考える。それを踏まえ、ジャーナリズムの社会における役割、さらに表現者としての自らのあり方について考えを進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備は特に必要としないが、ネットの報道のみならず、新聞・雑誌などオールドメディアの報道に慣れておくとよい。
簡単な調査や短い執筆をともなう宿題が 4-5 回程度出される予定。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。実習で使用する参考書は適宜案内するが、必ずしも購入する必要はない。

【参考書】
『校正記号の使い方』『原稿編集ルールブック』（ともに日本エディタースクール）、
『（新版）日本語の作文技術』（本多勝一著、朝日文庫）『大人のための国語ゼミ』（野矢茂樹著、山川出版社）『報道記者のための取材基礎ハンドブック』（西村隆次著、リーダーズノート）

【成績評価の方法と基準】
到達目標へのプロセスにおける論理立てや思考の深まりを実践し、学生にその方法を自分のものとすることを重視している。そこで、授業における発言などの積極的な貢献度（50 %）も高く評価する。討論などで貢献のある学生にはさらに加点していく。
取材文章の評価（50 %）は講義を通しての成果物である。文章の評価は、文章の完成度とともに、問題設定や情報収集の方法や思考プロセスとその過程、さらに表現に意を払っているかに重点を置いている。

【学生の意見等からの気づき】
文法など文章テクニックの短い講義・実習を織り込むことなどで、授業の目的である「問題意識の立て方」「事実の見かた・評価のしかた」「論理展開」について、受講生は一定のレベルに達することができた。今期は、受講生のそれまでの能力を判定し、そこに立脚してさらに実力を高める工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、タブレット、PC など、ネットに接続できる機器があるとよい。

【その他の重要事項】
教員は現役の記者、ノンフィクションライター、雑誌・書籍編集者、校正者として幅広い領域で活動しており、いま現在の実例を用いて、多様な観点をふまえて受講者と討論しながら取材文章に必要な思考と技術を学べるよう授業を設計している。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として執筆・編集業務全般にわたり携わる。
＜研究テーマ＞
調査報道の現代的あり方、リサーチ教育
＜主要研究業績＞
『リーガル・リサーチ』2003 年、日本評論社
『ひと目でわかる六法入門 第 2 版』2018 年、三省堂
『鉄道技術者　白井昭』2012 年、平凡社

【Outline (in English)】
[Course outline]
Story in Jounalism can be expressed as "It was thought based on the fact and its expression." The way to gather facts, evaluate the derived conclusions and express them properly is fundamental not only for journalism and academic things but also for all ideas, its importance is increasing more and more I will.
[Learning Objectives]
In this classloom, you will master the sentences of journalism (writing interviews) linked with your own way of thinking.
It aims at "learning skills".
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Article writing: 50%、in class contribution: 50%

SOC500E1 － 0301

学際研究２（映像と物語の認知科学）

金井　明人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知科学・人工知能、物語論に関する近年の研究論文などの輪読を行ない、最新研究について検討し、議論することを目的とする。特に物語と映像に関する認知科学と人工知能の最新研究に注目する。

【到達目標】
認知科学・人工知能、物語論の最新研究の動向を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献を輪読し、議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の内容について
第 2 回	文献解説	テキストについての解説
第 3 回	文献輪読 1	文献に関する議論
第 4 回	文献輪読 2	文献に関する議論
第 5 回	文献輪読 3	文献に関する議論
第 6 回	文献輪読 4	文献に関する議論
第 7 回	文献輪読 5	文献に関する議論
第 8 回	最新研究紹介	物語に関する最新研究の紹介を行なう。
第 9 回	最新研究紹介 2	前回をふまえ、議論する。
第 10 回	文献輪読 6	再度、文献に関する議論
第 11 回	文献輪読 7	文献に関する議論
第 12 回	文献輪読 8	文献に関する議論
第 13 回	最終発表 1	これまでの議論をふまえたまとめの発表
第 14 回	最終発表 2	引き続き、これまでの議論をふまえたまとめの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするので、授業外で発表などに向けた作業をすること。

【テキスト（教科書）】
学会誌『認知科学』、『人工知能』、Cognitive Science、Projections など

【参考書】
小方孝・川村洋次・金井明人 (2018)『情報物語論: 人工知能・認知・社会過程と物語生成』白桃書房

【成績評価の方法と基準】
発表 (30%)・議論 (30%)・資料内容 (40%) などを、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の希望する領域に近い論文を扱っていきたい。

【担当教員の専門分野】
< 専門領域> 映像と物語に関する認知科学・人工知能・修辞学
< 研究テーマ>
1) 映像と物語における認知的な切断と違和感，その修辞に関する情報物語論
2) ノンストーリー的物語とノスタルジア
3) ドキュメンタリーにおける物語
4) 1)～3）の映像環境への展開

< 主要研究業績>
(共著)『情報物語論: 人工知能・認知・社会過程と物語生成』白桃書房，2018 年
(共著) Computational and Cognitive Approaches to Narratology, IGI Global, 2016 年
(共編)『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版局, 2013 年
(共著)『物語論の情報学序説』学文社，2010 年
(共著) 映像編集のデザイン　－ストーリーと切断をめぐって－ 『認知科学』17(3), 444-458, 2010 年
(共編)『映像編集の理論と実践』法政大学出版局，2008 年

【Outline (in English)】
This course deals with the artificial intelligence, cognitive science, and narratology.

SOC500E1 － 0302

学際研究３（歴史学の方法）

慎　蒼宇

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、歴史学の立場から学問として歴史を捉える方法について、現在の興味深い研究を素材に学んでいこうと思う。歴史学は理論と離れたものではないが、その独自の任務は実証によって問題に向かい、過去の事象を把握しえた根拠を明示することにある。その範囲は限られたものではあるが、それらを学ぶことで「歴史的思考」を豊かにするきっかけをつくることができればと考えている。対象は東アジア近現代史を中心に、近年の研究を中心に「歴史学の現在」に接近を試みたい。

【到達目標】
東アジア近現代史を中心に、近年の歴史研究に触れることで、歴史学の問題意識や方法に対する理解を深め、各自の研究テーマに対し、大状況と小状況、支配と被支配の権力関係、歴史の連続と断絶、といったダイナミックな思考を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講読が基本になる。テキストについては最初の講義で決定する。テキストは全員読み、担当者はレジュメを作成して報告し、受講生で議論する。近年の研究については研究者をお招きし、学習会を行う。受講生の状況に応じて輪読の方法を決める。なお、本授業は、Zoom を使用してオンラインで実施する。毎回質疑応答の時間を多く設け、講義内容の理解を促進するためのコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方／文献の選定など
第 2 回	方法から考える①	歴史学の基礎についての概論
第 3 回	方法から考える②	戦後歴史学の特徴について考える
第 4 回	方法から考える③	現代歴史学の成果と課題
第 5 回	方法から考える④	史料論から考える
第 6 回	東アジアと日本①	講読と討議
第 7 回	東アジアと日本②	講読と討議
第 8 回	東アジアと日本③	講読と討議
第 9 回	近年の特集を読む①	講読と討議
第 10 回	近年の特集を読む②	講読と討議
第 11 回	近年の特集を読む③	講読と討議
第 12 回	アクチュアルな課題①	講読と討議
第 13 回	アクチュアルな課題②	講読と討議
第 14 回	まとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
決められたテキストは必ず全員読むことが必須。報告者は報告レジメを作成すること。テキストが決まったら、関連した参考図書も第 2 回目に提示するので読むことを薦める。 授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回に打ち合わせを行い決定する。

【参考書】
講義のなかで適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
報告の水準（50 %）、出席や講義での討論などの参加度（50 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
以下の学術研究データベースの URL をご参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html

【Outline (in English)】
We learn with the present interesting study as a material about the way to catch history as learning from the view point of historical science. A target is East Asia contemporary history.

SOC500E1 － 0305

社会科学研究法 1

大﨑　雄二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として日本国外の大学を卒業した日本語を第一言語としない外国人留学生を対象とする。
社会科学、社会学の基礎概念を再確認しながら、修士課程における学びの基軸、必要不可欠なアカデミック・リテラシーを具体的に確認し、習熟していく。

【到達目標】
情報・文献検索の方法、データ分析の基本、小論文作成の方法、プレゼンテーションの方法等を確認し、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が支障なくできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生参加型のインタラクティヴな演習の形態とする。
教員からの問題提起と課題に対し、学生が質問、回答しながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。課題等に対しての講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。
授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アイス・ブレーキング	役割分担決定等
2	情報の整理と要約 (1)	論文の要約 ① キーワード、キーフレーズ
3	情報の整理と要約 (2)	論文の要約 ② 要約のポイント
4	プレゼンテーション (1)	レジュメ作成のポイント ① 形式
5	プレゼンテーション (2)	レジュメ作成のポイント ② 内容
6	プレゼンテーション (3)	スライド作成のポイント
7	プレゼンテーション (4)	効果的な発表、相互批評・検討
8	情報、文献の検索と収集 (1)	データベースの活用
9	情報、文献の検索と収集 (2)	付加情報と脚註
10	情報、文献の検索と収集 (3)	関連文献検索、参考文献一覧作成
11	データ分析の基本 (1)	データ収集、処理の基礎
12	データ分析の基本 (2)	データ分析の基礎
13	小論文の作成 (1)	構想の発表と議論 ① 発表
14	小論文の作成 (2)	構想の発表と議論 ② 議論と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談してから決める。

【参考書】
授業内でテーマごとに複数紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
参加 40 % + 課題 60 %で評価したい。

【学生の意見等からの気づき】
よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。
従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。

【学生が準備すべき機器他】
パーソナルコンピュータを使った実習をおこなう際には事前に通知し、支障のないようにする。

【担当教員の専門分野等】
現代中国（東アジア）地域研究
国民統合、民族政策
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social sciences and sociology.It also enhances the development of foreign students' skill in making literal and oral presentation and self-regulated learning.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Final grade will be calculated according to the following process term-end report (60%) and in-class contribution(40%).

SOC500E1 － 0307

外国書講読１（英語）

鈴木　智之

備考（履修条件等）：**多摩，学部「外書講読（社会学）１Ａ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、Arthur W. Frank, Letting Stories Breathe, a socio-narratology を講読することを通じて、社会・人間科学におけるナラティヴ・アプローチの基本的な考え方を学ぶ。

【到達目標】
ナラティヴ・アプローチは、人間的な現実に接近するための重要な方法論の１つである。この講義では、その理論的な基礎を論じた英文テクストの講読を通じて、社会学的研究に必要な英語力を習得するとともに、研究上の方法論の選択に関する思考力を高めることを目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの抜粋の全訳と各章の内容の要約をくりかえす形で、英文の講読能力を高めるとともに、内容の全体的な把握を目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テクストの紹介と講義の進め方の説明
2	イントロダクション	テクスト内容の要約
3	第１章（１）	抜粋の訳出
4	第１章（２）	テクスト内容の要約
5	第２章（１）	抜粋の訳出
6	第２章（２）	テクスト内容の要約
7	第３章（１）	抜粋の訳出
8	第３章（２）	テクスト内容の要約
9	第４章（１）	抜粋の訳出
10	第４章（２）	テクスト内容の要約
11	第５章（１）	抜粋の要約
12	第５章（２）	テクスト内容の要約
13	第６章（１）	抜粋の要約
14	第６章（２）	テクスト内容の要約

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週に講読する章を読んで、各自が「訳出」または「要約」を準備することが求められる。
本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Arthur W. Frank, Letting Stories Breathe, a socio-narratology, The University of Chicago Press, 2010.

【参考書】
アーサー・W・フランク『傷ついた物語の語り手　身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年

【成績評価の方法と基準】
各回の授業における「訳出」と「要約」および議論への参加を総合的に評価する（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
担当初年度なので、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
In this class, we learn the basic ideas of narrative approach in social and human sciences through the reading of Letting Stories Breathe, a socio-narratology by Arthur W. Frank.
Students are expected to read and translate the text or make a summary for the next week.
Grade is decided on the total contribution in the class(100%).

SOC500E1 － 0308

外国書講読２（英語）

樋口　明彦

備考（履修条件等）：**多摩，学部「外書講読（社会学）１Ｂ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2020 年から猛威を振るったコロナ禍は、若者の暮らしを大きく変え、「コロナ世代 covid generation」を生み出した。本授業では、イギリスの事例を検討しながら、日本との国際比較を視野に入れた社会学的考察を行う。取り上げる主なテーマは、「政府のコロナ対策」「若者の日常生活」「学校」「失業」「メンタルヘルス」「政府への信頼感」などである。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事・政府統計・民間団体レポート・SNS なども活用する。

【到達目標】
①英語で書かれたテキストを正確に理解する。
②テキストの読解を通じて、日本の社会状況を社会学的に分析する。
③若者に対するコロナの影響について、専門的な社会学的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習。
①イギリスにおけるコロナ対応の年表作成（合同作業）
②各自、提示されたテーマから１つ選んで、英語テキスト購読、レジメ作成、報告
③日本の事例と比較しながらディスカッション
④各自、コロナ政策の評価レポートを作成、報告
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イギリスのコロナ対策
2	イギリスの状況	年表作成
3	テキスト購読①	政府のコロナ対策
4	テキスト購読②	若者の日常生活
5	テキスト購読③	若者の家族生活
6	テキスト購読④	若者の交友生活
7	テキスト購読⑤	学校
8	テキスト購読⑥	失業
9	テキスト購読⑦	メンタルヘルス
10	テキスト購読⑧	政府への信頼感
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	年表完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①テキスト購読、②レジメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは担当教員が準備して受講生に配布する。
Daisy Francourt, 2021 "People started breaking Covid rules when they saw those with privilege ignore them", The Guardian, 2 Jan 2021.
Richard Partington,2020, "Covid generation: UK youth unemployment 'set to triple to 80s levels'", The Guardian,7 Oct 2020.
UCL COVID-19 Social Study, 2021, "Understanding the psychological and social impact of the pandemic".

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
①平常点（50 %）
②評価レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心に沿って、テキスト内容を一部変更

【その他の重要事項】
本授業は、受講許可科目です。希望者は、必ず初回授業に参加して、教員の許可を得ること。

【専門領域】
社会政策

【研究テーマ】
若者政策

【主要研究業績】
樋口明彦，2021,「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障：横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店.
樋口明彦，2017,「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会.

【Outline (in English)】
This lecture is about the impact of Covid-19 on young people. The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC500E1 － 0307

外国書講読１（英語）

土倉　英志

備考（履修条件等）：**多摩，学部「外書講読（社会学）２Ａ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会心理学の英語論文を読む際につまづきの石となるもののひとつに，方法論の理解がある。たとえば，心理学実験の考えかた，実施手続き，データ収集後の分析手法（統計を含む）といったものである。英語を読むのが得意でも，英語論文を読みすすめることができないのは，こうした理解と関連している。方法論の理解があいまいなままでは，残念ながら「論文を読んだ」とは言えない。そこで本講義では，英文講読を通じて，社会心理学の考えかたの基礎を学んでいく。

【到達目標】
・社会心理学の英語論文を読むための知識を身につける。
・社会心理学の研究手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・受講者による文献報告を中心に展開する。受講者ごとに，またはチームごとに担当の文献を割りあてる。担当者にはレジュメを作成し，報告してもらう。これを受けてディスカッションを行なう。必要に応じて教員が説明を行なう。
・前半は，社会心理学の古典的な研究を中心に学び，基本的な研究枠組みを理解する。
・中盤以降は論文を読んでいく。終盤には論文を精読し，追試計画を構想する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要の説明，自己紹介，役割分担
2	文献講読 （社会心理学とは（1））	文献報告，討論 （社会心理学の考え方を学ぶ）
3	文献講読 （社会心理学とは（2））	文献報告，討論 （社会心理学の考え方を学ぶ）
4	文献講読 （グループで論文を読む（1））	文献報告，討論 （グループ内で論文について議論する）
5	文献講読 （グループで論文を読む（2））	文献報告，討論 （グループ内で論文について議論する）
6	文献講読 （グループで論文を読む（3））	文献報告，討論 （グループ内で論文について議論する）
7	文献講読 （論文 1）	文献報告，討論 （論文について全体で議論する）
8	文献講読 （論文 2）	文献報告，討論 （論文について全体で議論する）
9	文献講読 （論文 3）	文献報告，討論 （論文について全体で議論する）
10	文献講読 （論文 4）	文献報告，討論 （論文について全体で議論する）
11	文献講読 （方法の吟味（1））	文献報告，討論 （研究の方法を吟味する）
12	文献講読 （方法の吟味（2））	文献報告，討論 （研究の方法を吟味する）
13	文献講読 （成果報告（1））	文献報告，討論 （成果を報告する）
14	文献講読 （成果報告（2））	文献報告，討論 （成果を報告する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・文献を報告する準備を行なう。レジュメは期日までに学習支援システムにアップする。
・適宜課される課題に取り組む。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストの詳細は初回授業で説明するため必ず出席すること。
・論文はコピーを配付する。一例としてつぎ。Callan,M.J., Harvey,A.J., & Sutton,R.M. (2014). Rejecting victims of misfortune reduces delay discounting, Journal of Experimental Social Psychology, 51,41-44.

【参考書】
・大坪庸介・スミス，A.（2017）.『英語で学ぶ社会心理学』. 有斐閣.
・その他，授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（文献報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質で判断する（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
・講義の前半で基本的な概念を理解できるよううながしたい

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・授業計画や進めかたは，受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会心理学、認知科学、質的心理学
＜研究テーマ＞創造性、経験／創造による学習、コミュニティデザイン
＜主要研究業績＞教員のウェブサイトを参照してください
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010660/profile.html

【Outline (in English)】
This course involves reading social psychology articles written in English. Especially we focus on psychological experiments. The objective of this course is to develop reading skills in English and to acquire basic knowledge of central research method in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC500E1 － 0308

外国書講読２（英語）

徳安　彰

備考（履修条件等）：**多摩，学部「外書講読（社会学）２Ｂ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Meeta Rani Jha, The Golbal Beauty Industry (Routledge 2016) をテキストに、英語で社会学を学ぶ。このグローバルな美容産業についてのテキストの講読をとおして、ジェンダー、人種、階級、肌の色による差別、ネーション、身体、多文化主義、トランスナショナリズム、インターセクシュアリティといったトピックを、社会学、文化研究、ジェンダー研究、メディア研究、グローバリゼーション研究といった観点から理解する。

【到達目標】
英語で書かれた専門文献の読解能力を向上させる。文献の内容を理解することによって、ジェンダー、人種、階級、肌の色による差別、ネーション、身体、多文化主義、トランスナショナリズム、インターセクシュアリティといったトピックについての知見と理解を深める。また、文献で扱われているトピックについて、批判的思考（クリティカル・シンキング）の力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面形式で行う。受講者が、原典テキストの各章を担当してレジュメを作成し、内容を報告する（進度は各回 8 ～ 10 ページ程度）。報告にもとづいて、受講者全員で質疑応答や討議を行う。また必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキストのテーマと報告方法の説明、報告の分担
第 2 回	講読（1）	Introduction 前半
第 3 回	講読（2）	Introduction 後半
第 4 回	講読（3）	Chapter 1 前半: Beauty as Structural Inequality: Beauty, Feminist Protests, Nationalism, Neoliberal Femininity
第 5 回	講読（4）	Chapter 1 後半: Beauty as Structural Inequality: Beauty, Feminist Protests, Nationalism, Neoliberal Femininity
第 6 回	講読（5）	Chapter 2 前半: Black Is Beautiful: Anti-racist Beauty Aesthetics and Cultural REsistance
第 7 回	講読（6）	Chapter 2 後半: Black Is Beautiful: Anti-racist Beauty Aesthetics and Cultural REsistance
第 8 回	講読（7）	Chapter 3 前半: Globalization, Indiean Beauty Nationalism, and Colorism: Class, Caste, and Gender Stratification
第 9 回	講読（8）	Chapter 3 後半: Globalization, Indiean Beauty Nationalism, and Colorism: Class, Caste, and Gender Stratification
第 10 回	講読（9）	Chapter 4 前半: Chinese Femininity, Beauty Economy, Cosmetic Surgery
第 11 回	講読（１０）	Chapter 4 後半: Chinese Femininity, Beauty Economy, Cosmetic Surgery
第 12 回	講読（１１）	Chapter 5: A Complex Model of Beauty
第 13 回	まとめ（1）	全員による総括的討議（その１）
第 14 回	まとめ（2）	全員による総括的討議（その２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原典テキストの講読部分を事前に熟読し、理解を深めるとともに、不明点や派生的な関心点を明確にして授業に臨むこと。また授業後は、復習的にテキストを再読し、十分な理解が得られるようにすること。さらに派生的なテーマについても積極的に学習すること。
英語で社会学のテキストを読むので、英和辞典は当然のこと、社会学辞典もあわせて用意するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
Meeta Rani Jha, The Global Beauty Industry, Routledge 2016
テキストは担当教員が用意する。

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ：テキストの担当部分の報告および派生的なテーマについての報告の質（70%）、および各回の討議への参加・貢献度（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの講読の仕方を指導することによって、受講生のテキスト理解が深まるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 社会システム理論
< 研究テーマ> グローバル化の中の社会システム
< 主要研究業績> 学術研究データベースを参照

【Outline (in English)】
We learn sociology in English with the text "The Global Beauty Industry" (Meeta Rani Jha, Routledge 2016). With this text we learn the topics of gender, race, class, colorism, nation, bodies, multiculturalism, transnationalism, and intersectionality from the veiwpoints of sociology, as well as cultural, gender, media, and globalization studies.
Theo goals of this class are 1)progress in English reading on sociology, 2)understanding of relevant topics sociologically, and 3)advance in critical thinking on relevant topics.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to read and understand the text.
Grading will be decided based on report and presentation of assigned parts of the text (70%) and contribution to the discussion in the class (30%).

SOC500E1 － 0307

外国書講読１（英語）

髙橋　誠一

備考（履修条件等）：**多摩，学部「外書講読（メディア社会学）２Ａ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミックな英文のテクストを読解し，その内容をもとにディスカッションをする。

【到達目標】
アカデミックな英語文献を正確に理解する力を養う。
また，たんにテキストを読解するだけではなく，その内容を批判的に検討し，ディスカッションできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
Chapter または Section ごとに担当者を決めて訳文を確認しながらテキストの講読を進め，ディスカッションを交えながら内容の理解を深める。
ディスカッションは日本語で行う。
授業計画は授業の展開によって，若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要説明（テキスト，進め方，成績評価など）
第 2 回	基礎知識の習得	日本語での基礎知識の習得と Abstract から全体像を把握する
第 3 回	文献講読（1）	Chapter 1 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 4 回	文献講読（2）	Chapter 2 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 5 回	文献講読（3）	Chapter 2 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 6 回	文献講読（4）	Chapter 3 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 7 回	文献講読（5）	Chapter 3 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 8 回	文献講読（6）	Section 4.1 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 9 回	文献講読（7）	Section 4.1 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 10 回	文献講読（8）	Section 4.2 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 11 回	文献講読（9）	Section 4.2 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 12 回	文献講読（10）	Section 4.3 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 13 回	文献講読（11）	Section 4.3 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）
第 14 回	文献講読（12）	Chapter 5 について訳文の確認と内容の検討（ディスカッション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，必ずテキストを読んで予習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Mihelj, S. and Jiménez-Martínez, C., 2021, "Digital nationalism: understanding the role of digital media in the rise of 'new' nationalism," Nations and Nationalism, 27(2): 331-46.
https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/nana.12685
テキストは初回授業時に配布しますが，法政大学の電子ジャーナルから入手できるので，事前に目をとおしておくことを推奨します。

【参考書】
Eriksen, T., 2007, "Nationalism and the Internet," Nations and Nationalism, 13(1): 1-17.
https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/j.1469-8129.2007.00273.x

【成績評価の方法と基準】
・授業への参加 (50%)
・担当回の訳文 (35%)
・期末レポート（日本語）（15%）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
5 回以上欠席した場合は単位を認めません（4 回までは休んでよいという意味ではありません）。

【専門領域】
社会学，国際社会学

【研究業績等】
https://researchmap.jp/seiichi_t/

【Outline (in English)】
The aim of this course is to read, understand and discussion about academic paper written in English.
At the end of the course, students are expected to acquire the necessary skills and knowledge needed to read academic literature in English.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Final report: 15%, Assignment (translation): 35%, Class contribution: 50%

SOC500E1 － 0308

外国書講読２（英語）

吉田　公記

備考（履修条件等）：**多摩，学部「外書講読（メディア社会学）２Ｂ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では社会学の学術誌に掲載された研究論文を講読し、英語文献の読み方の基礎を学ぶ。

【到達目標】
英語で書かれた学術的な文章を正確かつ批判的に講読する技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では文単位で正確に理解することと、パラグラフなどまとまった単位で内容を理解することの両面に重点を置きながら読み進めていく。受講生は解説を聞いて各自の訳文（場合によっては要約）を添削し、疑問点や問題点を解決する。受講生に訳文や要約を発表してもらうこともある。提出課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。授業計画は展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・社会学の入門的な文章の講読①	授業の概要説明
第 2 回	社会学の入門的な文章の講読②	第 1 回授業分の解説
第 3 回	講読論文を読む①	Abstract を読み、論文の全体像を把握する
第 4 回	講読論文を読む②	INTRODUCTION を読む①
第 5 回	講読論文を読む③	INTRODUCTION を読む②
第 6 回	講読論文を読む④	METHOD を読む①
第 7 回	講読論文を読む⑤	METHOD を読む②
第 8 回	講読論文を読む⑥	METHOD を読む③
第 9 回	講読論文を読む⑦	METHOD を読む④
第 10 回	講読論文を読む⑧	DISCUSSION を読む①
第 11 回	講読論文を読む⑨	DISCUSSION を読む②
第 12 回	講読論文を読む⑩	CONCLUSION AND FUTURE RESEARCH を読む①
第 13 回	講読論文を読む⑪	CONCLUSION AND FUTURE RESEARCH を読む②
第 14 回	まとめ	これまでに学んだ内容の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定された範囲の訳文（場合によっては要約）を準備し、わからなかった箇所や難しかった箇所は疑問点を明確にしておくこと。前々日までに学習支援システムから訳文（場合によっては要約）を提出することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Muhammad Ittefaq, Mauryne Abwao, Annalise Baines, Genelle Belmas, Shafiq Ahmad Kamboh, Ever Josue Figueroa, 2022, "A pandemic of hate: Social representations of COVID-19 in the media," Analyses of Social Issues and Public Policy, 22(1): 225-252. https://doi.org/10.1111/asap.12300
＊本論文は、法政大学図書館のオンラインジャーナルで閲覧できる。
＊なお、初回授業の時点で文献が入手困難な場合、変更する可能性がある。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題点： 100%
＊課題がほぼ毎回ある。内容は、①授業で読む範囲の訳文（場合によっては要約）の提出（授業前）と②自己添削物の提出（授業後）が中心となる。
＊評価は課題点をベースとするが、授業への参加姿勢なども考慮し、総合的に評価する。期末試験・期末レポートは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書、スマートフォンの辞書でも可）

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業内および授業後に受け付ける。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 国際社会学
＜研究テーマ＞ イギリスにおける排外主義
＜主要研究業績＞
・吉田公記，2019「イギリスにおける EU 移民の福祉受給とミドルクラスの排外主義」『大原社会問題研究所雑誌』733 ： 28-39.
・吉田公記，2018「ワークフェア型福祉国家における移民の包摂と排除――イギリスの排外主義政党 UKIP の躍進背景の考察」『年報社会学論集』31 ： 48-59.
・ロジャース・ブルーベイカー著・佐藤成基・髙橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳，2016『グローバル化する世界と「帰属の政治」――移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店（第 1 章・第 2 章の翻訳を担当）.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn skills to read academic (sociological) papers written in English. Students are required to translate or summarize specified parts of the paper in advance to prepare for the classes.

SOC500E1 － 0307

外国書講読１（仏語）

髙橋　愛

備考（履修条件等）：**多摩，学部「フランス語上級Ａ１・Ｂ１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャル・ネットワーク、エコロジー、差別問題、住宅事情、仕事、音楽・映像、ファッション等のテーマに即して、現代のフランス社会と若者たちにみる意識を最新のインタビュー動画（字幕あり）やテクスト講読を通して学ぶ。各々のテーマの社会背景を知り、関連の語彙・表現を身につけ、フランス語の運用能力を養成する。

【到達目標】
辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれた文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章の読解で求められる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、教員が指定した箇所を予習する。（教科書にはテーマに沿った語彙や文法、社会背景について十分な注がついており、難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでほしい。）授業では、その箇所の文章を構文や時制などに注意して、全員で読解する。動画視聴やテクストの音読練習を通じて、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 ： Quel réseaux sociaux utilisez-vous ?「あなたはどんな SNS を利用していますか？」 Thème : Les réseaux sociaux（ソーシャル・ネットワーク）	Texte : 3 millions d'abonnés「300 万人のフォロワー」
2	Leçon 1 ： Quel réseaux sociaux utilisez-vous ?「あなたはどんな SNS を利用していますか？」 Thème : Les réseaux sociaux（ソーシャル・ネットワーク）	Grammaire et exercices ：疑問文・代名動詞
3	Leçon 2 ： Où habitez-vous en ce moment ?「今、どこに住んでいますか？」 Thème : Le logement（住宅事情）	Texte : Tu m'invites chez toi ?「君のところに招待してくれる？」
4	Leçon 2 ： Où habitez-vous en ce moment ?「今、どこに住んでいますか？」 Thème : Le logement（住宅事情）	Grammaire et exercices ：関係代名詞
5	Leçon 1,2 フランスの若者たちへのインタビュー動画	Regarder et écouter
6	Leçon 3 ： Que faites-vous au quotidien pour la planète ?「ふだん地球のために何をしていますか」 Thème : L'écologie（エコロジー）	Texte : Une jeunesse écolo「エコな若者たち」
7	Leçon 3 ： Que faites-vous au quotidien pour la planète ?「ふだん地球のために何をしていますか」 Thème : L'écologie（エコロジー）	Grammaire et exercices ：比較級・最上級
8	Leçon 4 ： Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?「この頃、何を見たり聴いたりしていますか？」 Thème : L'audiovisuel（オーディオ・ビジュアル）	Texte : On connaît la chanson !「恋するシャンソン」
9	Leçon 4 ： Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?「この頃、何を見たり聴いたりしていますか？」 Thème : L'audiovisuel（オーディオ・ビジュアル）	Grammaire et exercices ：直接・間接目的代名詞と代名詞 en, y
10	Leçon 3,4 フランスの若者たちへのインタビュー動画	Regarder et écouter
11	Leçon 5 ： Quel est votre budget mensuel ?「あなたの 1 か月の予算は？」 Thème : Le budget（お財布事情）	Texte : La galère des fins de mois「月末はつらいよ」
12	Leçon 5 ： Quel est votre budget mensuel ?「あなたの 1 か月の予算は？」 Thème : Le budget（お財布事情）	Grammaire et exercices ：複合過去・半過去
13	Leçon 5 フランスの若者たちへのインタビュー動画	Regarder et écouter
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
清岡智比古、レナ・ジュンタ、オリヴィア・ボワセル『Quoi de neuf ? Z 世代のリアル・フランス』、白水社、2023 年。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・現代フランスを理解するうえで不可欠な社会背景や語彙を学び、バランスよくフランス語の力が身につく授業を行います。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てください。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。（メールも可。）

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の URL
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 － 0308

外国書講読２（仏語）

髙橋　愛

備考（履修条件等）：**多摩，学部「フランス語上級Ａ４・Ｂ４」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ソーシャル・ネットワーク、エコロジー、差別問題、住宅事情、仕事、音楽・映像、ファッション等のテーマに即して、現代のフランス社会と若者たちにみる意識を最新のインタビュー動画（字幕あり）やテクスト講読を通して学ぶ。各々のテーマの社会背景を知り、関連の語彙・表現を身につけ、フランス語の運用能力を養成する。

【到達目標】
辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれた文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章の読解で求められる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、教員が指定した箇所を予習する。（教科書にはテーマに沿った語彙や文法、社会背景について十分な注がついており、難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでほしい。）授業では、その箇所の文章を構文や時制などに注意して、全員で読解する。動画視聴やテクストの音読練習を通じて、フランス語の自然なイントネーションとリズム、コミュニケーションのための表現力と聴く力も養う。辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回のリアクションペーパー等で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 6 ： Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ？「日常生活で差別を感じていますか？」 Thème : La discrimination（差別）	Texte : Balance ton quoi「告発せよ」
2	Leçon 6 ： Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ？「日常生活で差別を感じていますか？」 Thème : La discrimination（差別）	Grammaire et exercices : 受動態
3	Leçon 7 ： Que faites-vous de votre temps libre ？「空いている時間は何をしてますか」 Thème : Les loisirs（余暇）	Texte : On fait quoi ce soir ?「今晩何する？」
4	Leçon 7 ： Que faites-vous de votre temps libre ？「空いている時間は何をしてますか」 Thème : Les loisirs（余暇）	Grammaire et exercices : 現在分詞、ジェロンディフ
5	Leçon 6, 7 フランスの若者たちへのインタビュー動画	Regarder et écouter
6	Leçon 8 ： Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ？「一番最近買ったファッションアイテムは何ですか？」 Thème : La mode（ファッション）	Texte : Victime de la mode「ファッションの犠牲者たち」
7	Leçon 8 ： Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ？「一番最近買ったファッションアイテムは何ですか？」 Thème : La mode（ファッション）	Grammaire et exercices ：単純未来形・強調構文
8	Leçon 9 ： Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ？「パートナーに求めるものとして、一番大事なものは何ですか？」 Thème : L'amour（恋愛事情）	Texte : Des papillons dans le ventre「恋に落ちるとき」
9	Leçon 9 ： Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ？「パートナーに求めるものとして、一番大事なものは何ですか？」 Thème : L'amour（恋愛事情）	Grammaire et exercices ：条件法、中性代名詞
10	Leçon 8,9 フランスの若者たちへのインタビュー動画	Regarder et écouter
11	Leçon 10 ： Quel est le travail idéal pour vous ？「あなたにとって理想的な仕事とは？」 Thème : La recherche d'emploi（仕事探し）	Texte : Métro, boulot, dodo「地下鉄、仕事、ねんね」（パリのサラリーマンの単調な生活を皮肉った表現）
12	Leçon 10 ： Quel est le travail idéal pour vous ？「あなたにとって理想的な仕事とは？」 Thème : La recherche d'emploi（仕事探し）	Grammaire et exercices ：指示代名詞、接続法
13	Leçon 10 フランスの若者たちへのインタビュー動画	Regarder et écouter
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
清岡智比古、レナ・ジュンタ、オリヴィア・ボワセル『Quoi de neuf ? Z 世代のリアル・フランス』、白水社、2023 年。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・現代フランスを理解するうえで不可欠な社会背景や語彙を学び、バランスよくフランス語の力が身につく授業を行います。
・授業終了後にしばらく時間を設けて個別に対応するので、確認や連絡等がある場合には申し出てください。フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。（メールも可。）

【担当教員の専門分野等】
「法政大学学術研究データベース」の URL
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 － 0307

外国書講読１（独語）

濱中　春

備考（履修条件等）：**多摩，学部「ドイツ語上級Ａ１・Ｂ１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させる。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深める。

【到達目標】
・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読する。また、各課の練習問題で文法や成句の意味を確認する。各課でとりあげられているトピックについて調べたり、話し合ったりする時間も設ける。
予習の内容や質問には授業中にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方
第 2 回	Kapitel 01（前半）	「ハムスターになる」？ 買いだめと非常用備蓄（1）
第 3 回	Kapitel 01（後半）	「ハムスターになる」？ 買いだめと非常用備蓄（2）
第 4 回	Kapitel 02（前半）	重病患者の夢を叶えるワゴンカー（1）
第 5 回	Kapitel 02（後半）	重病患者の夢を叶えるワゴンカー（2）
第 6 回	Kapitel 03（前半）	原発停止とエネルギー危機（1）
第 7 回	Kapitel 03（後半）	原発停止とエネルギー危機（2）
第 8 回	Kapitel 04（前半）	9 ユーロ・チケット（1）
第 9 回	Kapitel 04（後半）	9 ユーロ・チケット（2）
第 10 回	Kapitel 05（前半）	持続可能性とフェアトレードのためのスーパーマーケット列車（1）
第 11 回	Kapitel 05（後半）	持続可能性とフェアトレードのためのスーパーマーケット列車（2）
第 12 回	Kapitel 06（前半）	ウクライナからの避難民（1）
第 13 回	Kapitel 06（後半）	ウクライナからの避難民（2）
第 14 回	補足とまとめ	授業内容の補足と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10　2023 年度版』（朝日出版社）

【参考書】
中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）
在間進『リファレンス・ドイツ語』（第三書房）
その他、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習状況・授業への参加状況）100 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course ist to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.
Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.
Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributuions.

SOC500E1 － 0308

外国書講読２（独語）

濱中　春

備考（履修条件等）：**多摩，学部「ドイツ語上級Ａ４・Ｂ４」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会や文化にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を丁寧に読んで、ドイツ語の読解力を向上させる。また、それを通して、現代のドイツ語圏事情についても知識と理解を深める。

【到達目標】
・社会生活で用いられる程度のレベルのドイツ語で書かれた文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
・ドイツ語の語彙や成句的表現を習得し、文法の知識をレベル・アップさせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読する。また、各課の練習問題で、文法や成句の意味を確認する。各課でとりあげられているトピックについて調べたり、話し合ったりする時間も設ける。学期後半は、最新のニュース記事などを講読する。
予習内容や質問には授業中にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方
第 2 回	Kapitel 07（前半）	スイスとオーストリアの中立と NATO（1）
第 3 回	Kapitel 07（後半）	スイスとオーストリアの中立と NATO（2）
第 4 回	Kapitel 08（前半）	クリスマスツリーは使い捨て？（1）
第 5 回	Kapitel 08（後半）	クリスマスツリーは使い捨て？（2）
第 6 回	Kapitel 09（前半）	人口増加が進むスイス（1）
第 7 回	Kapitel 09（後半）	人口増加が進むスイス（2）
第 8 回	Kapitel 10（前半）	ドイツ語圏の成人年齢（1）
第 9 回	Kapitel 10（後半）	ドイツ語圏の成人年齢（2）
第 10 回	追加テキスト（1）	ドイツ語圏の最新事情（1）
第 11 回	追加テキスト（2）	ドイツ語圏の最新事情（2）
第 12 回	追加テキスト（3）	ドイツ語圏の最新事情（3）
第 13 回	追加テキスト（4）	ドイツ語圏の最新事情（4）
第 14 回	補足とまとめ	補足と授業内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業範囲のテキストと練習問題を予習する。
授業後には、事前にわからなかった箇所や間違った箇所を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Diana Beier-Taguchi・田中雅敏『DACH・トピックス 10　2023 年度版』（朝日出版社）

【参考書】
中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）
在間進『リファレンス・ドイツ語』（第三書房）
その他、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習状況・授業への参加状況）100 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応したい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001976/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course ist to improve the reading comprehension in German by means of reading various texts on actual topics related to German-speaking society and culture. It is also expected to deepen the knowledge and understanding of German-speaking area.
Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.
Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributuions.

SOC500E1 － 0307

外国書講読１（中国語）

綿貫　哲郎

備考（履修条件等）：**多摩，学部「中国語上級Ａ１・Ｂ１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍・雑誌・新聞・論文等の文章を正確に読み解く練習・訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

１．読み（発音）について、ローマ字（ピンイン）を見ることなくおおよそ可能にできる
２．文成分の分析を正確に判断できる
３．文章語独自の表現や構造等に慣れ、日本語のふさわしい文章語としても表現できる
４．辞書を引くことに習熟しながら、原文の単語の類義語または日本語の意味の広がりを「類推する力」を涵養する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

主語・述語・修飾語・補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字（ピンイン）つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容	
1	精読の基礎（1）	文成分／構造分析①	主語
2	精読の基礎（2）	文成分／構造分析②	述語
3	精読の基礎（3）	文成分／構造分析③	連体修飾語
4	精読の基礎（4）	文成分／構造分析④	連用修飾語
5	精読の基礎（5）	文成分／構造分析⑤	補語
6	精読の基礎（6）	文成分／構造分析⑥	その他の文成分
7	精読の基礎（7）	辞書を使いこなす①	
8	精読の基礎（8）	辞書を使いこなす②	web の活用
9	精読の基礎（9）	辞書にない単語の検索	
10	精読の基礎（10）	辞書にない事項の検索	
11	文章の精読（1）	現代中国を読み解く①	
12	文章の精読（2）	現代中国を読み解く②	
13	文章の精読（3）	現代中国を読み解く③	
14	文章の精読（4）	現代中国を読み解く④	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．確実な予習
２．「中級」までの文法の系統的復習
３．新聞・雑誌・web 等の記事検索
４．関連項目の調査・読書等
５．確実な訳文の再確認・再構築等

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレヴェルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール　中国語」http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/　を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」･「中級」と積み上げてきた中国語なので、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた 2 年次程度の内容から始める。

将来の留学や研究・業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎である。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済・社会・文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

【担当教員の専門分野等（＜専門領域＞・＜研究テーマ＞・＜主要研究業績＞）】

以下の Researchmap の URL を参照してください。 https://researchmap.jp/twatanuki/

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The aim of this course is to further deepen students' understanding of contemporary Chinese and Chinese-speaking societies and cultures through repeated practice and training in accurately reading and understanding texts in books, magazines, and newspapers written in modern Chinese (Mandarin), and through reading texts.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. Use romaji (pinyin) only as a supplement.
2. Be able to accurately analyze sentence components.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

1. reliable preparation
2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.
3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
4. Research and read about related topics.
5. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

SOC500E1 － 0308

外国書講読２（中国語）

綿貫　哲郎

備考（履修条件等）：**多摩，学部「中国語上級Ａ４・Ｂ４」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍・雑誌・新聞・論文等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

１．教科書ではない実際の中国語（新聞・雑誌・書籍・論文など）は長く難解な文章が多いので、その文章の読解（文成分や文の構造分析）を徹底して理解できる
２．辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける
３．学修（翻訳）後のリライトで訳文を再確認・再構築することで、中国語の文化と日本の文化との違いを理解できる
４．今後の研究に必要な中国語文献等の読解の基礎力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌・書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用・慣用的表現にも習熟していく。

課題についての講評や注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読（1）	文成分、構造分析をしながらの精読（1）
2	時事的な文章の精読（2）	文成分、構造分析をしながらの精読（2）
3	時事的な文章の精読（3）	文成分、構造分析をしながらの精読（3）
4	時事的な文章の精読（4）	文成分、構造分析をしながらの精読（4）
5	時事的な文章の精読（5）	文成分、構造分析をしながらの精読（5）
6	時事的な文章の精読（6）	文成分、構造分析をしながらの精読（6）
7	時事的な文章の精読（7）	文成分、構造分析をしながらの精読（7）
8	多読、速読（1）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（1）
9	多読、速読（2）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（2）
10	多読、速読（3）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（3）
11	多読、速読（4）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（4）
12	多読、速読（5）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（5）
13	多読、速読（6）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（6）
14	多読、速読（7）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．確実な予習
２．「中級」までの文法の系統的復習
３．新聞・雑誌・web 等の記事検索
４．関連項目の調査・読書等
５．確実な訳文の再確認・再構築等

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレヴェルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール　中国語」http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/　を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室では従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB 上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはずです。一日も早いその日の到来を楽しみに、一緒に辞書を引きましょう。

【担当教員の専門分野等（＜専門領域＞・＜研究テーマ＞・＜主要研究業績＞）】

以下の Researchmap の URL を参照してください。 https://researchmap.jp/twatanuki/

【Outline (in English)】

【授業の概要と目的（何を学ぶか） / Outline and objectives】

Repeated practice and training in accurately reading and understanding texts in books, magazines, newspapers, etc. written in modern Chinese (Mandarin). Through reading and comprehension of texts, students will further deepen their understanding of the society and culture of modern China and the Chinese-speaking world.

【到達目標 / Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. Use romaji (pinyin) only as a supplement.
2. Be able to accurately analyze sentence components.
3. Become familiar with the unique expressions and structures of written language.
4. Cultivate the ability to draw analogies while becoming proficient in using a dictionary.
5. To reconfirm and reconstruct the translated text through rewriting after the study (translation)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等） / Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. reliable preparation
2. Systematic review of grammar up to the intermediate level.
3. Search for articles in newspapers, magazines, and on the web.
4. Research and read about related topics.
5. Reconfirmation and reconstruction of reliable translations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 / Grading criteria】

No term-end examination will be given. The final grade will be calculated based on the contribution made in the class (100%).

SOC500E1 － 0309

社会学原典講読

橋爪　絢子

備考（履修条件等）：**博士後期課程「社会学原典研究１」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Marshall McLuhan の『Understanding Media: The Extensions of Man』をテキストにして、原典講読を行う。原典の講読を通して、メディアの概念やメディア研究の理解を深める。

【到達目標】
原典講読を通して、現代の多様なメディアの本質と機能から、文化と社会の変容について学び、メディアの概念を広く理解できるようになる。それと同時に、メディア研究について、自ら社会学的に考え、理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の受講者がテキストの各章を分担し、ぞれぞれの内容のレジュメを準備して報告、討論する。必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	メディアという概念やメディア研究について考える。
第 2 回	講読（1）	テキストのイントロダクションと 1～2 章を読んで、討論する。
第 3 回	講読（2）	テキストの 3～5 章を読んで、討論する。
第 4 回	講読（3）	テキストの 6～8 章を読んで、討論する。
第 5 回	講読（4）	テキストの 9～11 章を読んで、討論する。
第 6 回	講読（5）	テキストの 12～14 章を読んで、討論する。
第 7 回	講読（6）	テキストの 15～17 章を読んで、討論する。
第 8 回	講読（7）	テキストの 18～20 章を読んで、討論する。
第 9 回	講読（8）	テキストの 21～23 章を読んで、討論する。
第 10 回	講読（9）	テキストの 24～26 章を読んで、討論する。
第 11 回	講読（１０）	テキストの 27～29 章を読んで、討論する。
第 12 回	講読（１１）	テキストの 30～31 章を読んで、討論する。
第 13 回	講読（１２）	テキストの 32～33 章を読んで、討論する。
第 14 回	まとめ	全員で総括的討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Marshall McLuhan (1965), Understanding Media: The Extensions of Man, McGraw-Hill
< Reprint > Marshall McLuhan (1994), Understanding Media: The Extensions of Man, The MIT Press

【参考書】
とくに指定はせず、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回の報告（70 %）：テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質によって評価する。
授業への貢献（30 %）：各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していないので、とくになし

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010661/profile.html

【Outline (in English)】
We read "Understanding Media: The Extensions of Man" (by Marshall McLuhan) chapter by chapter. The goal of this class is to study the essence and function, cultural and social transformations regarding various media, and to understand the concept of media. Expected study time for each class is more than four hours. The overall grade will be decided based on presentation in each class (70%) and in class contribution (30%).

SOC600E1 － 0102

修士論文指導Ⅰ A

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程１年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 2 回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 3 回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 4 回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 5 回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 6 回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 7 回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0102

修士論文指導Ⅰ A

藤田　真文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程１年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 2 回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 3 回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 4 回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第 5 回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 6 回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第 7 回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マス・コミュニケーション論、メディア論
＜研究テーマ＞ニュースの言語分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」を参照してください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001537/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0103

修士論文指導Ⅰ B

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程１年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 2 回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 3 回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 4 回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 5 回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第 6 回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第 7 回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0103

修士論文指導Ｉ Ｂ

藤田　真文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程１年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 2 回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 3 回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 4 回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第 5 回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第 6 回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第 7 回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マス・コミュニケーション論、メディア論
＜研究テーマ＞ニュースの言語分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」を参照してください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001537/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0104

修士論文指導Ⅱ A

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 2 回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 3 回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 4 回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 5 回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 6 回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 7 回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0104

修士論文指導Ⅱ A

樋口　明彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 2 回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 3 回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 4 回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 5 回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 6 回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 7 回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【専門領域】
社会政策

【研究テーマ】
若者政策

【主要研究業績】
樋口明彦，2021,「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障：横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店.
樋口明彦，2017,「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0104

修士論文指導Ⅱ A

田嶋　淳子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 2 回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 3 回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 4 回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 5 回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 6 回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 7 回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
＜研究テーマ＞　グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
＜主要研究業績＞
１．『国際移住の社会学』明石書店、2010 年。
２．「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂,2018 年
３．「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第 13 号、66 － 78 ページ、2021 年。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0104

修士論文指導Ⅱ A

三井　さよ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 2 回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 3 回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 4 回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 5 回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 6 回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 7 回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞臨床社会学
＜主要研究業績＞三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0104

修士論文指導Ⅱ A

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 2 回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 3 回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 4 回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 5 回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 6 回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 7 回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0104

修士論文指導Ⅱ A

別府　三奈子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）研究計画確認	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 2 回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）追加調査の実施	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 3 回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）追加調査の分析	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 4 回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）追加調査の考察	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第 5 回	研究発表による構想の改善（1）論旨展開	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 6 回	研究発表による構想の改善（2）論文目次	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第 7 回	研究発表による構想の改善（3）＋論文執筆要綱	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を基準とする。

【テキスト（教科書）】
テーマに応じて、指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞米国ジャーナリズム思想史
＜主要単著＞『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006 年。『アジアでどんな戦争があったのか　戦跡を辿る旅』めこん、2006 年。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0105

修士論文指導Ⅱ B

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 2 回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 3 回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 4 回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 5 回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 6 回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 7 回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0105

修士論文指導Ⅱ B

樋口　明彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 2 回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 3 回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 4 回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 5 回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 6 回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 7 回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【専門領域】
社会政策

【研究テーマ】
若者政策

【主要研究業績】
樋口明彦，2021,「家族扶養・正規雇用の相対化から見える若者への社会保障：横浜市における新型コロナ禍前後の取り組みを事例に」宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎編『アンダークラス化する若者たち』明石書店.
樋口明彦，2017,「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0105

修士論文指導Ⅱ B

田嶋　淳子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 2 回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 3 回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 4 回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 5 回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 6 回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 7 回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　国際社会学、移住・エスニシティ研究、東アジア地域研究
＜研究テーマ＞　グローバル化と社会変容、中国系移住者の比較社会学的研究
＜主要研究業績＞
１．『国際移住の社会学』明石書店、2010 年。
２．「中国系ニューカマーズがもたらす地域社会の変容」栗田和明編『移民と移住』昭和堂,2018 年
３．「イタリアにおける中国系移住者家族の変遷」『移民政策研究』第 13 号、66 － 78 ページ、2021 年。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0105

修士論文指導Ⅱ B

三井　さよ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 2 回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 3 回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 4 回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 5 回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 6 回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 7 回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞臨床社会学
＜主要研究業績＞三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0105

修士論文指導Ⅱ B

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究枠組みの確認と修正（1）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 2 回	研究枠組みの確認と修正（2）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 3 回	研究枠組みの確認と修正（3）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 4 回	研究枠組みの確認と修正（4）	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 5 回	論文執筆と改善指導（1）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 6 回	論文執筆と改善指導（2）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 7 回	論文執筆と改善指導（3）	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 － 0105

修士論文指導Ⅱ B

別府　三奈子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆のための指導（修士課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究枠組みの確認と修正（1）夏調査報告・本文討議	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 2 回	研究枠組みの確認と修正（2）本文討議	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 3 回	研究枠組みの確認と修正（3）本文討議	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 4 回	研究枠組みの確認と修正（4）本文討議	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第 5 回	論文執筆と改善指導（1）仮説―結論、論旨展開・アブストラクト確認	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 6 回	論文執筆と改善指導（2）引用文献・付録確認	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第 7 回	論文執筆と改善指導（3）図表・注の処理確認	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テーマに即し、必要に応じて指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞米国ジャーナリズム思想史
＜主要単著＞『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006 年。『アジアでどんな戦争があったのか　戦跡を辿る旅』めこん、2006 年。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0100

博士論文指導Ⅰ A

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程 1 年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0100

博士論文指導Ⅰ A

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程 1 年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0101

博士論文指導Ⅰ B

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程 1 年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0101

博士論文指導Ⅰ B

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程 1 年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0102

博士論文指導Ⅱ A

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0102

博士論文指導Ⅱ A

岡野内　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021 年）、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年）など。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0103

博士論文指導Ⅱ B

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0103

博士論文指導Ⅱ B

岡野内　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程２年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の文献レビュー研究、あるいは第一次情報収集の成果を中心とする査読付き論文を、年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021 年）、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年）など。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0104

博士論文指導Ⅲ A

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0104

博士論文指導Ⅲ A

慎　蒼宇

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
以下の学術研究データベースの URL をご参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0104

博士論文指導Ⅲ A

岡野内　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021 年）、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年）など。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0104

博士論文指導Ⅲ A

徳安　彰

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
以下の学術研究データベースの URL をご参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0104

博士論文指導Ⅲ A

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0104

博士論文指導Ⅲ A

藤田　真文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マス・コミュニケーション論、メディア論
＜研究テーマ＞ニュースの言語分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」を参照してください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001537/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0105

博士論文指導Ⅲ B

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0105

博士論文指導Ⅲ B

慎　蒼宇

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
以下の学術研究データベースの URL をご参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0105

博士論文指導Ⅲ B

岡野内　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会理論、国際政治経済学
＜研究テーマ＞グローバル・ベーシック・インカム研究
＜主要研究業績＞岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021 年）、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年）など。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0105

博士論文指導Ⅲ B

徳安　彰

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
以下の学術研究データベースの URL をご参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/29/0002844/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0105

博士論文指導Ⅲ B

鈴木　智之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
文化社会学、理論社会学
＜研究テーマ＞
語りの社会学
＜主要研究業績＞
『不確かさの軌跡　先天性心疾患とともに生きる人々の生活史と社会生活』（宮下阿子、中脇美紀との共著）ゆみる出版、2022 年

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0105

博士論文指導Ⅲ B

藤田　真文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆のための指導（博士後期課程３年次対象）

【到達目標】
指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 2 回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 3 回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 4 回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第 5 回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 6 回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 7 回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 8 回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第 9 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 10 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 11 回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第 12 回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 13 回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第 14 回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指導教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マス・コミュニケーション論、メディア論
＜研究テーマ＞ニュースの言語分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞「法政大学学術研究データベース」を参照してください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001537/profile.html

【Outline (in English)】
The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 － 0200

社会学総合演習 A

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを本科目の目的とする。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

【到達目標】
査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
7 月下旬頃に、院生が査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文に対して、複数の教員が「模擬査読」をおこなう「投稿論文検討会」を開催する。履修学生は所定の期限（6 月末予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当教員がおこなう。
課題等へのフィードバックは「投稿論文検討会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文作成指導（1）	指導教員による
第 2 回	論文作成指導（2）	指導教員による
第 3 回	論文作成指導（3）	指導教員による
第 4 回	論文作成指導（4）	指導教員による
第 5 回	論文作成指導（5）	指導教員による
第 6 回	投稿論文検討会	1 時限
第 7 回	投稿論文検討会	2 時限
第 8 回	投稿論文検討会	3 時限
第 9 回	投稿論文検討会	4 時限
第 10 回	投稿論文検討会	5 時限
第 11 回	論文改善指導（1）	模擬査読担当者による
第 12 回	論文改善指導（2）	模擬査読担当者による
第 13 回	論文改善指導（3）	模擬査読担当者による
第 14 回	論文改善指導（4）	模擬査読担当者による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
提出された研究論文と当日の報告内容をふまえ、P（合格）／ F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice. Grading (P/F) will be decided based on whether you present a paper or not.

SOC700E1 － 0201

社会学総合演習 B

社会学研究科教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究の指針を得ることを目的とする。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

【到達目標】
先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
1 月下旬頃に、博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を開催する。履修学生は所定の期限（12 月中旬予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会の前の博論構想指導、報告会の後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。
課題等へのフィードバックは「博論構想報告会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博論構想指導（1）	指導教員による
第 2 回	博論構想指導（2）	指導教員による
第 3 回	博論構想指導（3）	指導教員による
第 4 回	博論構想指導（4）	指導教員による
第 5 回	博論構想指導（5）	指導教員による
第 6 回	博論構想報告会	1 時限
第 7 回	博論構想報告会	2 時限
第 8 回	博論構想報告会	3 時限
第 9 回	博論構想報告会	4 時限
第 10 回	博論構想報告会	5 時限
第 11 回	博論執筆指導（1）	指導教員による
第 12 回	博論執筆指導（2）	指導教員による
第 13 回	博論執筆指導（3）	指導教員による
第 14 回	博論執筆指導（4）	指導教員による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
博論構想報告会当日の報告をふまえ、P（合格）／ F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students. Grading (P/F) will be decided based on whether you report your plan for the dissertation or not.

SOC500E1 － 0200

社会学研究 1

GEORGE　HANN

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

【到達目標】
- Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- Reflecting and analyzing ideas.
- Responding to other's ideas.
- Reading critically.
- Understanding the components of an argument.
- Understanding the structure of an argument.
- Reasoning for or against a claim.
- Presenting ideas from external sources.
- Synthesizing multiple sources.
- Formulating and presenting an original argument.
- Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's "On Writing Well"). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Introductions	• Syllabus and course explanation • General essay structure • Rd. Jackie Robinson's Free Minds and Hearts at Work • Free Minds and Hearts at Work class discussion • Draft 1
第 2 回	Summary & Response	• How to write a summary and response • Peer review – What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing? • Rd. Zinsser Chs. 1-2 • Draft 2
第 3 回	Summary & Response continued	• Discuss Zinsser Chs. 1-2 • Comma usage • Summary & Response Final Draft • Rd. Zinsser Chs. 3-4
第 4 回	Critique Essay	• Discuss Zinsser Chs. 3-4 • Cutting clutter • Rd. Kaplan's Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education • Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric • Introduce your article (summary and response)
第 5 回	Critique Essay continued	• What is a critique and how to write one • Discuss Kaplan • When to use passive/active voice • Rd. Zinsser Chs. 5-7 • Draft 1
第 6 回	Critique Essay continued	• Discuss Zinsser Chs. 5-7 • Citing sources (APA format) • Logos, Pathos, Ethos • Draft 2
第 7 回	Research Paper	• Logical fallacies • Final draft
第 8 回	Research Paper continued	• Logical fallacies continued • Organization of a research paper • Rd. Zinsser Chs. 8-9
第 9 回	Research Paper continued	• Synthesizing sources • Discuss Zinsser Chs. 8-9 • Draft 1
第 10 回	Research Paper continued	• Peer Review • Draft 2
第 11 回	Research Paper continued	• Peer Review • Final Draft
第 12 回	Poster Presentation	• Preparing a poster presentation
第 13 回	Poster Presentation continued	• Work on poster presentations
第 14 回	Poster Presentation continued	• Poster presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Course readings; essay writing; presentation preparation

【テキスト（教科書）】
William Zinsser On Writing Well, 25th Edition

【参考書】
English-Japanese and Japanese-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Summary & Response Essay: 20%
Critique Essay: 25%
Research Essay: 25%
Poster Presentation: 20%
Class Discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
Laptop computer, Webcam, Internet connection.

【その他の重要事項】
授業形態：対面/オンライン

【担当教員の専門分野等】
英語教育学

【研究テーマ】
CALL; Drama in Language Education

【主要研究業績】
Matsumura, Shoichi, and George Hann. 2004. Computer anxiety and students' preferred feedback methods in EFL writing. The Modern Language Journal 88: 403 – 15.

【Outline (in English)】
In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

SOC500E1 － 0201

社会学研究２

中村　英代

備考（履修条件等）：**修士課程「社会学特殊研究５」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】
本クラスでは、個人報告と文献購読によって、１）臨床社会学研究、２）質的調査研究について学びます。
【目的】
以上の学びを通じて、受講生各自が自分自身の研究力を向上させることを目的とします。

【到達目標】
・臨床社会学について理解し、自分自身の研究・論文執筆に活かすことができる。
・質的調査方法論を理解し、自分の研究・論文執筆に活かすことができます。
・理論的な分析視角を設定することができる。
・自分自身の研究を、先行諸研究のなかに位置付け、意味ある社会学研究としてまとめあげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式（個人報告および文献購読）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本クラスのスケジュール、個人報告・文献報告の分担の決定。
第 2 回	個人報告（1）	受講生が、各自自分自身の研究について報告。
第 3 回	個人報告（2）	受講生が、各自自分自身の研究について報告。
第 4 回	文献購読（1）：研究対象の設定と調査者のポジショナリティ	指定テキストの序章（『摂食障害の語り』）を読み込み、調査対象の設定の仕方、調査者の立場性について理解する。
第 5 回	文献購読（2）：先行研究のレビュー	指定テキストの第１章（『摂食障害の語り』）を読み込み、先行研究のレビューの仕方、先行研究のまとめ方について理解する。
第 6 回	文献購読（3）：分析視角としての社会構成主義	指定テキストの第５章（『摂食障害の語り』）を読み込み、社会構成主義と社会構成主義という視座の質的研究法への応用の仕方について理解する。
第 7 回	文献購読（4）：相対化される言説のなかで、自らの調査データをいかに位置付けるか	指定テキストの第６章（『摂食障害の語り』）を読み込み、あらゆる言説が相対化されるなかに、自らの調査データをいかに位置付けるかを理解する。
第 8 回	文献購読（5）：分析視角の設定①	指定テキストの第１章・２章（『依存症と回復、そして資本主義』）を読み込み、分析視角の設定の仕方について理解する。
第 9 回	文献購読（6）：分析視角の設定②	指定テキストの第３章・４章（『依存症と回復、そして資本主義』）を読み込み、分析視角から調査対象を分析する方法について理解する。
第 10 回	文献購読（7）：臨床社会学研究を学ぶ	指定テキストの第５章・６章（『依存症と回復、そして資本主義』）を読み込み、臨床社会学研究の課題や方法について理解する。
第 11 回	個人報告（1）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。
第 12 回	研究報告（2）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。
第 13 回	研究報告（3）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。
第 14 回	研究報告（4）	受講生が、各自自分自身の研究（あるいは調査データ）について報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
各回指定の文献を必ず読んできて下さい。

【テキスト（教科書）】
・中村英代、2022『依存症と回復、そして資本主義――暴走する社会で〈希望のステップ〉を踏み続ける』光文社.
・中村英代、2011『摂食障害の語り――〈回復〉の臨床社会学』新曜社.
以上の２冊のテキストは授業で使うので、受講者は必ず用意をして下さい。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
授業内での報告（50%）、ディスカッション（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞現代社会の生きづらさ（摂食障害、依存症）、資本主義社会システム、質的調査方法論
＜主要研究業績＞
・中村英代、2022『依存症と回復、そして資本主義――暴走する社会で〈希望のステップ〉を踏み続ける』光文社.
・中村英代、2017『社会学ドリル――この理不尽な世界の片隅で』新曜社.
・中村英代、2011『摂食障害の語り――〈回復〉の臨床社会学』新曜社.
[第 11 回日本社会学会奨励賞・著書の部　受賞]
・南 保輔・中村英代・相良翔編、2018『当事者が支援する―薬物依存からの回復 ダルクの日々パート 2』春風社.

【担当教員ウェブサイト】
http://www.hideyonakamura.com
以上は担当教員の公式ウェブサイトです。履修の際に参考にして下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the clinical sociology and methods of qualitative research. It also enhances the development of students' skill in sociological research.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to improve students' own sociological research skills.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Seminar reports: 50%、in class contribution: 50%.

SOC500E1 － 0202

社会学研究３

井上　直樹

備考（履修条件等）：**修士課程「社会学特殊研究６」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、YouTube、TikTok、Twitter などのソーシャルメディアを中心とした「デジタル・ジャーナリズム」を学びます。授業の目的は、ソーシャルメディアの世界で起きている出来事を理解すること、インターネットの情報やデジタル技術を活用して情報を調べるスキルを身につけること、どのように発信すると人々に届くのか、自分自身のデジタル空間での振る舞いやプライバシーについて考えることです。

【到達目標】
デジタル調査報道の事例や、スキルの実践を通して、自分自身で情報の信頼性を調べることができるようになり、インターネットにおける情報の消費及び発信に関するメディアリテラシーについてより深い知識・考察を得ることを目指します。日常生活を含めて「デジタル・ジャーナリズム」のスキル・知識を活用できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習（ワークショップや議論）を組み合わせて行います。デジタルツールを利用した新たな報道やジャーナリズム手法を知り、実際に手を動かしながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の予定や目的について説明。
第 2 回	世界のデジタル調査報道、キャンペーンについて	国内外の報道機関やメディアにおけるデジタル技術を使った調査や、コンテンツ制作の事例を紹介する。
第 3 回	デジタル調査の演習（検索するスキル）	インターネット上での検索を効率的にする方法。「消えた」サイトを調べるには... など。
第 4 回	デジタル調査の演習（場所を調べる）	ソーシャルメディアなどに投稿された映像の場所を、様々なツールを使って調べる。
第 5 回	デジタル調査の演習（デジタルデータ）	スマートフォンで撮影された映像のデータを調べたり、様々なサイトを活用して社会の事象を追う方法を知る。
第 6 回	デジタル調査の演習（衛星画像）	衛星画像を報道や事実検証で活用する方法を知る。
第 7 回	デジタル調査の演習（データ活用）	公開されている様々なデータを活用して、何か新しい発見を探す。
第 8 回	SNS をウォッチする報道について	Twitter などのソーシャルメディアを常時監視することで事件や事故、災害の情報を発見する活動について知る。
第 9 回	データジャーナリズム（事例紹介）	データを使った報道の事例について学ぶ。
第 10 回	データジャーナリズム（議論など）	データ報道の実践や、国内外の事例について議論する。
第 11 回	メディアリテラシー	講座内で学ぶデジタルの調査手法は、自分に向けられる可能性もある。デジタル空間でのメディアリテラシーを考える。ネットの世論が、社会の世論なのか？
第 12 回	エンジニアリングとメディア・報道	ウェブサイト制作や分析、AR、VR などを活用した昨今の報道事例を学ぶ。ブロックチェーン活用を模索した事例など。
第 13 回	メディアの発信・社会の声を集める	社会の声を集めるためにデジタルツールを使ったり、メディアが連携してコンテンツを発信する事例について学ぶ
第 14 回	まとめ	講義で学んだポイントを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
記者のためのオープンデータ活用ハンドブック
熊田安伸 (著)
出版社 ： 公益財団法人　新聞通信調査会
発売日 ： 2022/12/25

【参考書】
フェイクニュースの生態系
藤代 裕之 (著, 編集)
出版社 ： 青弓社
発売日 ： 2021/9/7

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、レポート 60 点

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ジャーナリズム、メディア
＜研究テーマ＞ジャーナリズム、メディアにおけるテクノロジーの利用
＜主要研究業績＞　現在 NHK で働き、デジタル技術を活用した報道に取り組んでいます。これまでの仕事では、Google でメディアを支援する仕事をしたり、新聞社で記者をしてきました。新しい技術を報道やメディアで利用していくことを考えています。

【Outline (in English)】
This class will study "digital journalism" with a focus on social media such as YouTube, TikTok, and Twitter. The objectives of the class are to understand what is happening in the world of social media, to develop skills in using the Internet and digital technology for research information, to think about how to reach people when you create content, and to think about your behavior and privacy in the digital space.

SOC500E1 － 0203

社会調査法 1

三井　さよ

備考（履修条件等）：**修士課程「調査研究法」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学の研究の実際の場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析する思考法を習得する。まずは社会学の調査研究の古典、近年の優れた研究を講読し、また担当者自身の研究のデータ収集・分析のプロセスを見ていくことを通して、それらの問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学ぶ。さらに受講者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】
・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインあるいは対面（ハイブリッド）での演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1 ：社会学と社会調査	社会学における社会調査の歴史と発展について学ぶ。
第 2 回	総論 2 ：社会調査の諸類型	社会調査のさまざまな類型について学ぶ。
第 3 回	総論 3 ：社会調査の倫理と真正性	社会調査における調査倫理、また調査における確からしさについて学ぶ。
第 4 回	フィールドワークの光と影 1	文献から実例を学ぶ。
第 5 回	フィールドワークの光と影 2	文献から実例を学ぶ。
第 6 回	フィールドワークの光と影 3	受講生各自の研究テーマにおけるフィールドワーク調査の活用について討議する。
第 7 回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わす 1	文献から実例を学ぶ。
第 8 回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わす 2	受講生各自の研究テーマにおけるライフヒストリー研究の活用について討議する。
第 9 回	テキストデータの分析 1	文献から実例を学ぶ。
第 10 回	テキストデータの分析 2	文献から実例を学ぶ。
第 11 回	テキストデータの分析	受講生各自の研究テーマにおけるテキストデータや映像資料の分析の活用について討議する。
第 12 回	社会関係を計量する 1	文献から実例を学ぶ。
第 13 回	社会関係を計量する 2	受講生各自の研究テーマにおける量的データの分析とその活用について討議する。
第 14 回	各自の問題関心に基づく調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したリサーチデザインの報告レジュメを作成すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
上記授業計画の「内容」に記載。

【参考書】
各回ごとで授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加 30 %、報告の内容評価 30 %、筆記試験 40 %。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることを求める。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
学生支援システムへの PC によるアクセスが必須。

【その他の重要事項】
専門社会調査士資格の H 科目に該当する。
修士課程「調査研究法」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会学
＜研究テーマ＞臨床社会学
＜主要研究業績＞三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【Outline (in English)】
In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. They will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics, recent excellent research, and the research of the instructor. In addition, They will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、in class presentation : 30%、in class contribution: 30%

SOC500E1 － 0204

社会調査法２

胡中　孟徳

備考（履修条件等）：**修士課程「統計分析法」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】
主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS ：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS ：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイトで「SPSS ：リモートデスクトップ」の「利用ガイド」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第 2 回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第 3 回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第 4 回	線形代数の基礎	線型代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第 5 回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第 6 回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線型代数を用い解説する
第 7 回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第 8 回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の１つである OLS と、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第 9 回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第 10 回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第 11 回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第 12 回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第 13 回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第 14 回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】
ボーンシュテット＆ノーキ，1990，『社会統計学』ハーベスト社.
片瀬一男編，2007，『社会統計学』放送大学教育振興会.
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40 %）とレポート（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞教育社会学・生活時間研究
＜研究テーマ＞生活時間と格差
＜主要研究業績＞
中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤渉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018 年，章分担執筆）.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports
(60%).

SOC500E1 － 0205

社会調査法３

堀川　三郎

備考（履修条件等）：**修士課程「質的資料分析法」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】
さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第 2 回	質的調査法の歴史と到達点 1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第 3 回	質的調査法の歴史と到達点 2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／ GTA ／会話分析
第 4 回	実践的課題 1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第 5 回	実践的課題 2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第 6 回	実践的課題 3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第 7 回	ワークショップ 1	データ・質的資料の持ち寄り
第 8 回	ワークショップ 2	最初の感想とそこから見えるもの
第 9 回	ワークショップ 3	どう記録をつくるのか
第 10 回	ワークショップ 4	テーマをたてる
第 11 回	ワークショップ 5	データの特性を理解する
第 12 回	ワークショップ 6	改めてテーマをたてる
第 13 回	ワークショップ 7	ふたたびデータの特性を考える
第 14 回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
１．岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法』有斐閣
２．佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法：理論・方法・実践』新曜社

【成績評価の方法と基準】
討議への参加（40%），演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】
非該当（N/A）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境社会学，都市社会学
＜研究テーマ＞歴史的環境保存の社会学，日米比較社会論
＜主要研究業績＞『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』（東京大学出版会，2018 年），*Why Place Matters* (Springer, 2021) など

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge of qualitative research methods.
First, students will understand development processes and current situations of qualitative survey methods including fieldwork such as interviews and participant observation as well as document analysis. Students will study and discuss important points in conducting qualitative research from practical perspectives. Workshops will be conducted based on data presented by students and/or the instructor, through which students will learn how to select and carry out appropriate methods.
Learning Objectives
Students will acquire basic understanding of various qualitative research methods and learn how to analyze qualitative data including newspaper and magazine articles, documents, films, broadcasting and music. Students are expected to achieve capabilities to apply actual analysis methods in some data types.
Learning Activities Outside Class
Standard duration for preparation and review will be two hours each.
Assessment
Participation in discussions (40%) and exercises (60%)

SOC500E1 － 0206

社会学原典研究 1

橋爪　絢子

備考（履修条件等）：**修士課程「社会学原典講読」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Marshall McLuhan の『Understanding Media: The Extensions of Man』をテキストにして、原典講読を行う。原典の講読を通して、メディアの概念やメディア研究の理解を深める。

【到達目標】
原典講読を通して、現代の多様なメディアの本質と機能から、文化と社会の変容について学び、メディアの概念を広く理解できるようになる。それと同時に、メディア研究について、自ら社会学的に考え、理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の受講者がテキストの各章を分担し、ぞれぞれの内容のレジュメを準備して報告、討論する。必要に応じて、派生的なテーマについても、受講者が学習と報告を行い、全体の討議に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	メディアという概念やメディア研究について考える。
第 2 回	講読（1）	テキストのイントロダクションと 1～2 章を読んで、討論する。
第 3 回	講読（2）	テキストの 3～5 章を読んで、討論する。
第 4 回	講読（3）	テキストの 6～8 章を読んで、討論する。
第 5 回	講読（4）	テキストの 9～11 章を読んで、討論する。
第 6 回	講読（5）	テキストの 12～14 章を読んで、討論する。
第 7 回	講読（6）	テキストの 15～17 章を読んで、討論する。
第 8 回	講読（7）	テキストの 18～20 章を読んで、討論する。
第 9 回	講読（8）	テキストの 21～23 章を読んで、討論する。
第 10 回	講読（9）	テキストの 24～26 章を読んで、討論する。
第 11 回	講読（１０）	テキストの 27～29 章を読んで、討論する。
第 12 回	講読（１１）	テキストの 30～31 章を読んで、討論する。
第 13 回	講読（１２）	テキストの 32～33 章を読んで、討論する。
第 14 回	まとめ	全員で総括的討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Marshall McLuhan (1965), Understanding Media: The Extensions of Man, McGraw-Hill
< Reprint > Marshall McLuhan (1994), Understanding Media: The Extensions of Man, The MIT Press

【参考書】
とくに指定はせず、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回の報告（70 %）：テキストの担当部分の報告の質、派生的なテーマについての報告の質によって評価する。
授業への貢献（30 %）：各回の討議への参加・貢献度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していないので、とくになし

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010661/profile.html

【Outline (in English)】
We read "Understanding Media: The Extensions of Man" (by Marshall McLuhan) chapter by chapter. The goal of this class is to study the essence and function, cultural and social transformations regarding various media, and to understand the concept of media. Expected study time for each class is more than four hours. The overall grade will be decided based on presentation in each class (70%) and in class contribution (30%).

法政大学
HOSEI University